

5 仁淀川地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

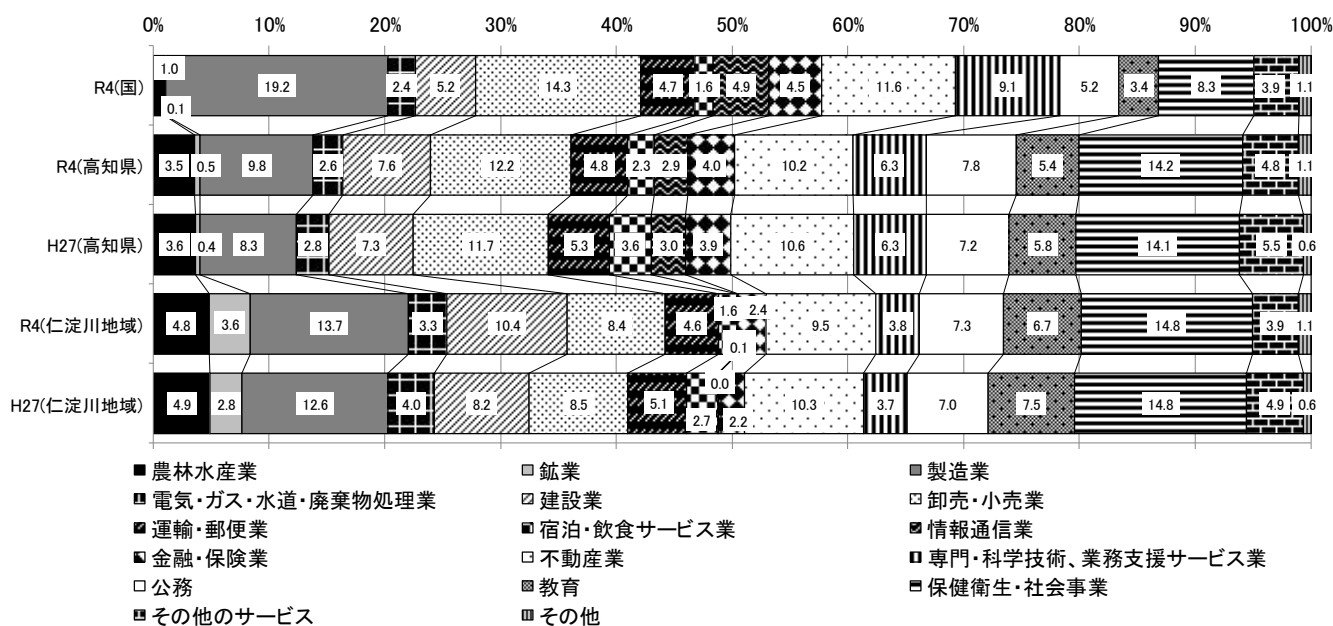
仁淀川地域では、仁淀川の豊かな自然や風土に育まれた農林水産業や紙産業、観光産業など、水資源とのつながりがある産業を中心に発展してきました。

一方、当地域の人口は、高知県推計人口によると、68,338人（令和7年10月1日現在）で、10年前の平成27年と比べ▲13.8%、また全人口に占める生産年齢人口の割合も47.7%で▲4.1%と、人口の減少や少子高齢化の進展により地域経済を支える人口が減少しており、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。

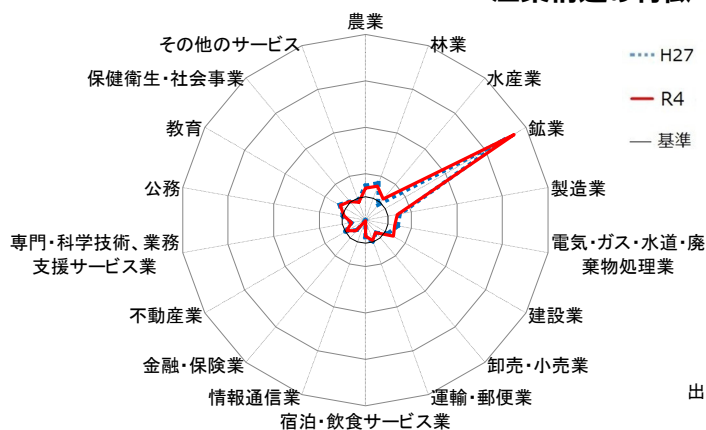
仁淀川地域の令和4年度の市町村内総生産（名目）は、222,527百万円であり、平成27年度と比較すると約1.7%増加しています。なお、令和4年度の県内総生産（名目）に占める割合は約9.2%です。

産業別構成比（令和4年度）は、鉱業、製造業、農林水産業などの割合が、県全体と比較して高いことが、特色に挙げられます。

県内（国内）総生産（名目）の産業別構成比



産業構造の特徴



高知県を比較対象とした場合	仁淀川地域		高知県を比較対象とした場合	仁淀川地域	
特化係数※	H27	R4	特化係数※	H27	R4
農業	1.49	1.38	宿泊・飲食	0.75	0.69
林業	1.69	1.54	情報通信業	0.01	0.03
水産業	0.85	1.20	金融・保険業	0.57	0.60
鉱業	6.92	7.41	不動産業	0.98	0.93
製造業	1.51	1.39	専門	0.59	0.60
電・ガ・水・廃	1.43	1.29	公務	0.98	0.93
建設業	1.13	1.38	教育	1.29	1.24
卸売・小売業	0.72	0.69	保健衛生	1.05	1.05
運輸・郵便業	0.97	0.95	その他サービス	0.89	0.82

※特化係数：仁淀川地域の経済活動ごとの構成比を高知県と比較し、高知県から見た相対的な経済活動構成比の大きさを表す指標。

出典：市町村経済統計（高知県）、国民経済計算（内閣府）

農業分野

仁淀川の下流域を中心とする平地・丘陵地では、温暖な気候を利用したピーマン、キュウリ、ショウガ、ニラ、文旦、メロンなどの基幹品目の生産が行われています。こうした園芸産地においては、環境制御技術が普及拡大するとともに、高糖度トマトでは法人参入による団地での生産や選果ラインの活用などによりブランド化が進んでいます。また、中山間地域では、茶や薬用作物、本川手箱きじといった地域の特性を生かした農畜産業に取り組んでいます。一方で、農家人口の減少や農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が続いています。

林業分野

原木生産の拡大に向け、施業地の集約化や作業道の整備、高性能林業機械の導入などを進めています。一方で、新型コロナウイルス感染症やウッドショックの影響を受け休業した事業体が出たことなどから生産量が伸び悩むなど、厳しい状況が続いています。また、中山間地域の生産活動に寄与している特用林産物では、シキミ・サカキに加え、きのこ類の生産・販売など地域の特性を生かした取り組みを進めています。

水産業分野

「宇佐の一本釣りうるめいわし」をはじめとした鮮魚加工の推進による地域資源の活用や雇用創出とともに、積極的な外商活動の展開により売り上げを順調に伸ばしています。また、県内産の養殖魚などを活用した水産加工場が稼働を開始し、商品開発や販路開拓に取り組んでいます。

商工業分野

衰退する地域の商業に活力を呼び戻すため、中心市街地の活性化に取り組んでいます。商店街の空き店舗等を有効活用した新規開業や、集客施設となる「ドラゴン広場」、「村の駅ひだか」の経営改善やイベント開催など、商店街の賑わいづくりを進めることが必要です。また、地域資源を活用した加工品の製造・販売では、加工施設の整備や販路拡大、道の駅など販売拠点の整備により売上増や雇用の創出といった地産外商の成果が表れてきています。仁淀川地域の伝統産業である「土佐和紙」の販売促進では、国際版画展や、手すき職人、紙産業に関わる事業者及び商工会等が連携して開催するイベントなどにおいて、土佐和紙の PRに取り組んでいます。また、県では、令和4年度に土佐和紙関係者などの意見を踏まえ、庁内プロジェクトチームにおいて協議を重ね、「土佐和紙総合戦略」を改訂し、市町村や関係団体など一体となって土佐和紙の伝統産業としての振興に取り組んでいます。

観光分野

全国的にも透明度の高さを誇り、「奇跡の清流仁淀川」や「仁淀ブルー」と称されている仁淀川の魅力を体感してもらうことで、ファンの拡大につなげるため、屋形船での遊覧やカヌー・ラフティング、観光ガイドによるまち歩きなどの体験メニューの磨き上げに加え、精油工房やアクティビティ施設といった新たな体験観光拠点及びキャンプ場の整備により、「滞在型観光」を推進し、交流人口の拡大、観光消費額の増加に向けて取り組みを進めています。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、地域アクションプランのこれまでの成果と課題を踏まえつつ、市町村で策定されている第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みとも歩調を合わせながら、一次産業をはじめとする地域産業の振興に取り組めます。

また、地域産業の共通課題である担い手の育成や労働力の確保については、県と市町村との協働のもとに進めている移住政策や、各産業分野の担い手育成・労働力確保の対策などともリンクをさせながら取り組めます。

加えて、地域資源を活用した商品づくりや販売促進を行うことで、地産外商の一層の強化を図るとともに、「奇跡の清流仁淀川」や「仁淀ブルー」と称され、全国的に人気が高まっている仁淀川をテーマとした広域観光をさらに推進し、交流人口の拡大を図ります。

農業分野

温暖な気候と立地条件を生かした園芸産地の基幹品目を中心にデータ駆動型農業への転換、生産・出荷体制の強化、販売促進やブランド化などをさらに進めるとともに、高糖度トマトやショウガ、サンショウの生産、商品開発、新たに整備したトマト加工施設による生産能力の強化や販路拡大の取り組みを推進します。また、仁淀川地域の「仁淀川流域茶」（仕上げ茶）、薬用作物、本川手箱きじなど地域特性を生かした農畜産物の生産・加工・販売の取り組みなどにより、農業者の所得向上や担い手の確保につなげます。

林業分野

林業分野では、森林の集約化による施業地の確保、担い手の育成・確保、計画的な原木生産の拡大を図り、自伐型林業においては引き続き切り捨て間伐の実施により施業困難地への対応を行うとともに、地域おこし協力隊の採用により小規模林業を推進します。また、中山間地域の貴重な収入源となる特用林産物についても、安定的な需要が期待できるシキミやサカキの生産拡大、原木マイタケや菌床キクラゲなどきのこ類の生産拡大や販路拡大を進めることによって、生産者の所得向上や担い手の確保につなげます。

水産業分野

地域の特産品である「宇佐の一本釣りうるめいわし」などの鮮魚を活用した新たな加工品の開発や販路の開拓などに取り組めます。さらに、マダイやカンパチなど県内養殖魚や地元食材を活用した水産加工場が稼働しており、商品開発や国内外への販路開拓をすすめることにより、養殖産業の振興、地元産品の利用拡大及び雇用の創出を図ります。

商工業分野

中心市街地活性化計画の着実な実行や、茶や野菜、地乳などの地域資源を活用した特産品や新商品の開発・販路拡大、販売の拠点となる集客施設の経営改善や新たに整備された道の駅への集客及び販売促進などに取り組めます。また、地域の特産品を活用したアイス製造業の生産能力の拡大や、地域資源を活用したジン・ウイスキー、クラフトビールの製造・販売促進に取り組めます。地域の伝統産業である「土佐和紙」についても、「土佐和紙総合戦略」に基づき原料づくり、担い手づくり、商品開発やPRなどの付加価値づくりの取り組みを県・市町村・関係団体などが一体となって進めます。

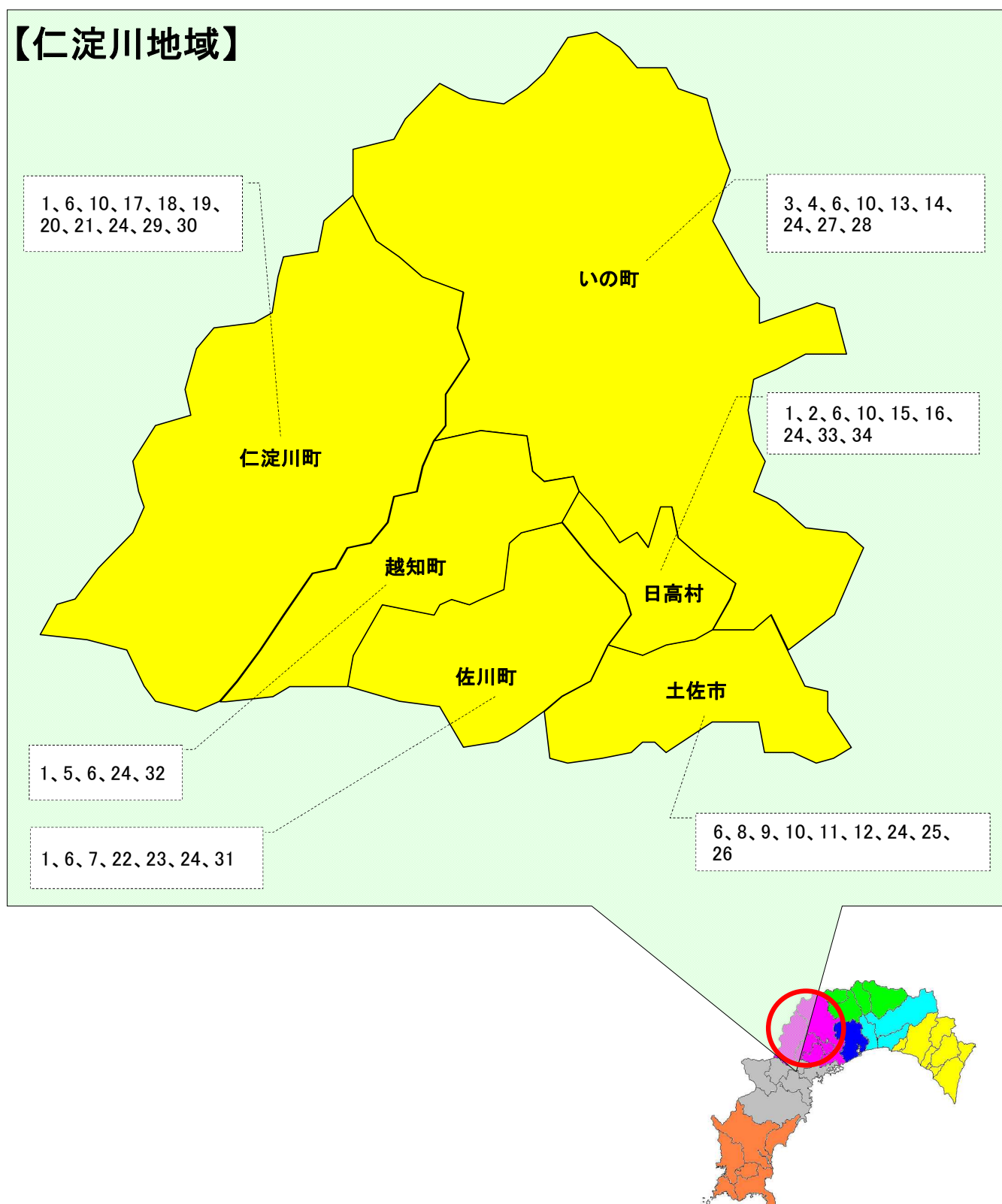
観光分野

一般社団法人仁淀ブルー観光協議会を舵取り役として、市町村・関係団体などとの連携をさらに強化し、マーケットインに基づく旅行会社へのプロモーション活動やSNS等を活用した情報発信、体験メニューの開発・磨き上げ、訪日外国人旅行者の受入体制の整備等、域内への経済波及効果の拡大に向けて引き続き、取り組みを進めます。これまでに定着してきた「仁淀ブルー」や「牧野博士ゆかりの地」というブランドを生かした商品造成やPRを一層強化するとともに、エリア全体での周遊や滞在延長、宿泊につながる取り組みを推進し、これまで以上に、食や歴史、草花や自然など、仁淀川地域の魅力を満喫していただけるよう、市町村や関係機関とも連携しながら「滞在型観光」を推進することで、持続可能な観光地域づくりにつなげ、さらなる観光振興、地域の活性化を図ります。

(3) 具体的な取り組み

分野	No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
農	1	仁淀川流域の薬用作物の生産性の向上による産地振興			●	●	●	●
	2	日高村まるごとブランド化						●
	3	いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト		●				
	4	本川手箱きじの販路拡大		●				
	5	越知町における食用山椒の産地振興					●	
林	6	仁淀川流域における特用林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
	7	佐川町における自伐型林業の推進と地域の活性化				●		
水	8	宇佐の一本釣りうるめいわし等の鮮魚加工品の販路拡大と地域の活性化	●					
	9	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興	●					
商工	10	「土佐和紙」の販売促進	●	●	●			●
	11	土佐市における木毛(もくめん)を核とした製品の販路拡大とブランド化	●					
	12	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
	13	いの町中心市街地の活性化		●				
	14	地域産品を活用した冷菓等の販路拡大		●				
	15	日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化						●
	16	地域資源を活用した粉炭づくりによる地域の課題解決および活性化						●
	17	仁淀川町におけるクラフトビールを軸にした交流人口の拡大と地域の活性化			●			
	18	仁淀川町における(株)フードプランを核とした野菜の産地形成と販売拡大			●			
	19	仁淀川町の基幹産業である茶の6次産業化の推進			●			
	20	仁淀川町「池川こんにゃく」の生産拡大による地域の活性化			●			
	21	仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による地域の活性化			●			
	22	さかわの地乳(ぢちち)ブランドの再構築による販路拡大				●		
観光	23	「まきのさんの道の駅・佐川」を活用した交流人口の拡大と地域の活性化				●		
	24	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
	25	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
	26	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化	●					
	27	いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進		●				
	28	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
	29	仁淀川町滞在交流型観光の推進			●			
	30	仁淀川町アウトドアリゾートプロジェクト			●			
	31	佐川町の歴史と文化を生かした観光の推進				●		
	32	越知町の「アウトドアなまち」体験型観光の推進					●	
	33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進						●
	34	日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化						●

【仁淀川地域】



仁淀川地域アクションプラン		
分野		農業
AP 名 (実施地域)	No. 1 仁淀川流域の薬用作物の生産性の向上による産地振興 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)	
実施主体	◎ (農) ヒューマンライフ土佐	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物について、生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図るため、乾燥作業の改善や栽培管理、病害虫防除の指導を徹底し、漢方薬の需要増に対応した生産拡大と生産性の向上に取り組む。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化	○(農)ヒューマンライフ土佐の体制強化 ・総会の開催、部門別生産者会の開催 (R2:2 回、R3:2 回、R4:2 回、R5:2 回、R6:2 回) ・乾燥機の導入 (R3) →こうち農業確立総合支援事業費補助金の活用 ※H28 に乾燥機、H29 にミシマサイコ自動茎切機を導入	【成果】 ・乾燥機の導入により乾燥作業を自社完結 (ミシマサイコ) ・低温処理による種子の発芽改善対策開始 ・新病害への農業登録申請
	○薬用作物の安定生産 (ミシマサイコ) ・休作者への作付け呼びかけ、新規栽培者の勧誘 (R 元:3 回) ・栽培管理資料・防除資料の配付 (R2:3 回、R3:3 回、R4:1 回、R5:1 回)、病害虫防除指導 (R6:3 回) ・栽培講習会の開催 (R2:2 回、R3:1 回、R4:1 回、R5:1 回、R6:1 回) ・実証ほの設置 苗立ち本数確保 (R2:4 カ所)、炭そ病防除薬剤 (R2:1 カ所) 発芽改善 (R3:1 カ所、R4:1 カ所) 〈薬用サンショウ〉 ・収穫時の労働力確保に向けた協議 (R3:3 回) ・越知町農福連携支援会議設置 (R6) ・無料職業紹介所設置開設 (R6) ・栽培管理・防除資料の配付 (R2:11 回、R4:1 回、R5:1 回、R6:3 回) ・栽培講習会の開催 (R2:2 回、R3:1 回、R4:3 回、R5:1 回、R6:2 回) ・市町村広報誌による作付け呼びかけ・説明会 (R6:管内町村での説明会 4 回＋個別面談 31 人) ・実証ほの設置 緩効性肥料による礼肥効果の検討 (R3:2 カ所、R4:2 カ所、R5:2 カ所)、汚泥肥料の活用実証 (R6:1 カ所) ・土壌分析の実施 (R2:88 点、R3:61 点、R4:117 点、R5:83 点、R6:85 点) ・農福連携体験研修を実施 (R6:1 回、15 人) 就労継続支援事業所 2 カ所と出荷調整業務の委託契約締結 (ダイダイ) ・栽培管理・防除資料配付(R2:1 回、R3:1 回、R5:1 回、R6:1 回) ・栽培講習会の開催 (R2:2 回、R3:1 回、R4:1 回、R5:1 回)	・専門業者に苗木生産を委託契約 (年間 2,000 本を目標) ・主要病害に対する新農業登録申請 ・農福連携で出荷調製作業をマッチング (作業委託 2 件) 〈ダイダイ〉 ・栽培管理技術の周知により栽培面積が増加 【課題】 ・サンショウ乾燥作業で生産者からの収穫物受け入れが滞る ・自社ほ場の管理人員不足 ・ミシマサイコ、サンショウの病害防除のための登録農薬が少ない ・3 品目ともに、栽培剪定管理、病害虫防除が十分に行えていない生産者もあり、指導の継続が必要 (ミシマサイコ)秋蒔 2 年生栽培体系の周知徹底 (サンショウ)老朽園地の改植

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)ミシマサイコ製品量※ (乾燥重量)	0.3t (R4)	0.6t		R8	R9
(2)サンショウ製品量※ (乾燥重量)	23.6t (R2～4 平均)	33.5t			40t (R6～9 平均)
(3)ダイダイ製品量※ (乾燥重量)	13.9t (R4)	11.1t			26.6t

※会計年度：5 月～4 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制の強化		自社は場栽培管理等の人員確保			
■ (農) ヒューマンライフ土佐		自社の生産強化			
・栽培管理等の人員の確保					
□県(農業改良普及所、環境農業推進課等)		農薬登録			
・ミシマサイコの斑点病、根朽病、サンショウのサビ病の農薬登録		新たに登録された農薬による防除徹底			
・サンショウ規模拡大志向農家等の栽培面積拡大推進		サンショウ規模拡大農家等の栽培面積拡大			
乾燥作業の改善					
■ (農) ヒューマンライフ土佐					
・乾燥作業の効率化のために要改善点の点検					
・作業の省力化を可能とする高性能乾燥機の追加導入の検討					
□県(農業改良普及所等)		作業工程の点検・乾燥機の追加導入の検討			
・補助金等活用への支援		乾燥機の導入による処理能力向上			
薬用作物の栽培管理、病害虫防除指導 (ミシマサイコ)					
■ (農) ヒューマンライフ土佐		ミシマサイコ新規栽培者等の勧誘、栽培管理・防除技術指導			
・新規栽培者等の勧誘					
・現地検討会、栽培講習会の開催					
□県(農業改良普及所等)					
・病害防除指導 (斑点病、根朽病防除指導)					
・栽培管理指導 (秋まき 2 年栽培、基本管理指導)					
〈サンショウ〉					
■ (農) ヒューマンライフ土佐		サンショウ老朽園地の改植推進、栽培管理・防除技術指導			
・老朽園地の改植推進 (苗木の確保)					
・現地検討会、栽培・剪定講習会の開催					
□県(農業改良普及所等)					
・病害防除指導 (サビ病防除)					
・栽培管理指導 (接ぎ木・剪定・施肥管理等)					
・農福連携支援会議、無料職業紹介所を活用した労働力確保推進 (ダイダイ)					
■ (農) ヒューマンライフ土佐					
・現地検討会、栽培・剪定講習会の開催					
□県(農業改良普及所等)					
・病害防除指導 (そうか病、かいよう病防除)					
・栽培管理指導 (剪定・施肥管理)		ダイダイの栽培管理・防除技術指導			

仁淀川地域アクションプラン		
分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.2 日高村まるごとブランド化 (日高村)	
実施主体	◎日高村、◎(株)村の駅ひだか、◎(特非)日高わのわ会、◎JA 高知県(仁淀川地区)、JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)イチネン高知日高村農園、日高村商工会、(株)霧山茶園	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	高糖度トマト生産における販売戦略や地域ネットワーク、産地間競争力を強化し、生産者の所得向上につなげる。地域の特産品等の開発・販売活動や「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進により、日高村の知名度やブランド力の向上を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
経営管理能力及び生産力の向上	・栽培マニュアルによる栽培技術の平準化(H21～) ・コスモス農協(現 JA 高知県)の選果場の整備 →産振補助金の活用(H21～H23) ・環境制御技術の取組開始(H25～) ・(株)イチネン高知日高村農園のトマト栽培参入(H28) ・データ駆動型農業を取り入れ品質・収量向上(R2～) ・経営管理能力の向上(R2～) ・労働力確保に向けた関係機関との連携(R2～)、JA 無料職業紹介所の活用 ・新規就農者育成・確保(R2～) ・促成高糖度トマトの機能性分析(GABA 含有量)による高付加価値化に向けた共同研究(R4～)	【成果】 ・産地面積拡大 H27：8.3ha →R5：8.8ha ・次世代型環境制御技術の導入拡大による生産技術の強化 導入面積 H27：7.1％ →R5：100％ ・R2 年度以降の新規就農者数 5 名(R2～R6) ・新商品の開発 延べ 24 件 (R2～R5) ・「オムライス街道」によるオムライス販売数延べ 575,997 食 (H26 ～R5) 【課題】 ・担い手営農の定着 ・経営安定に向けた労働力の確保 ・知名度の向上 ・新たな加工商品の開発 ・「日高の未来戦略」を生かした新たな取り組みの創出
特産品の開発と販売力の向上	・食の安全・安心への取り組み強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動(H21～) ・日高村アグリネットワーク会議の開催(H24～) ・直販市の機能をもつ「村の駅ひだか」のオープン(H26) →産振補助金を活用(H25) ・村の駅ひだかが増床リニューアル(H29) ・村の駅ひだかの駐車スペース拡大(H27:47 台、R4:大型車 5 台、普通車 26 台) ・新たな加工施設(特非)日高わのわ会)の整備(R6) →産振アドバイザー制度、産振補助金の活用	
「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進	・オムライス街道事業の実施(H27～) ・「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の実施計画(日高の未来戦略)策定(H30) →産振補助金の活用 ・交流拠点施設「Eat & Stay とまと」がオープン(R 元.11 月) 指定管理者変更で「ARUMO410」としてオープン(R6.11 月)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)農産物等の売上高 [うち、(特非)日高わのわ会の製造販売部門の売上高]	7.09 億円 [0.31 億円] (R4)	7.14 億円 [0.38 億円]		R8	R9 7.60 億円 [0.58 億円]
(2)村の駅ひだかの売上高	2.08 億円 (R4)	2.09 億円			2.16 億円
(3)商品・加工品開発件数	15 件 (R2～4 累計)	6 件			25 件 (R6～9 累計)
(4)村外からの移住者数	26 組 (R2～4 累計)	8 組			20 組 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
経営管理能力及び生産力の向上 ■JA 高知県(仁淀川地区)、JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)イチネン高知日高村農園 ・個別農家の経営改善目標の達成と向上、労働力の確保と作業員の効率的な労務管理 □県(高吾農業改良普及所) ・栽培マニュアル等を活用した生産技術の向上支援 ・環境データや出荷データを活用した品質、収量の向上支援 ・個別経営目標の設定 ・労働力確保に向けた取り組みの実施					経営改善及び高付加価値による産地の強化 出荷果実糖度の測定・管理による機能性トマトの品質管理の実証
特産品の開発と機能性に着目した販促活動の展開 ■JA 高知県(仁淀川地区)、(株)イチネン高知日高村農園 ・大学等と連携した商品開発及び販路開拓等の実施 ■日高村、日高村商工会、村内事業者 ・日高村アグリネットワークと連携した特産品等の開発及び販促活動の実施 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度、産振補助金の活用への支援 加工施設の整備・稼働 ■(特非)日高わのわ会 ・新たな加工施設の整備及び稼働に向けた取り組み、衛生管理の実施 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度、産振補助金の活用への支援		トマトの機能性に着目した販促活動			トマトの機能性に着目した販促活動
「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進による地域活性化 ■日高村 ・プロジェクト推進に係る会議の開催、オムライス街道事業の実施、トマトやオムライスを活かしたローカルブランディング、移住促進策の推進 ■村内事業者 ・基幹産業を活かした商品開発、オムライス街道事業への参画によるオムライズ販売、日高村アグリネットワークへの参画		特産品等の開発及び販促活動の実施	施設整備	新施設の稼働 衛生管理の実施	実施計画に沿ったプロジェクトの推進

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.3 いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト (いの町)	分野 農業
実施主体	◎いの町、JA 高知県(伊野支所)、いの町商工会 等	
AP への位置づけ	R2.4 月	
事業概要	生姜の集出荷場整備を契機に生姜生産農家、地元加工業者等が連携し、生産拡大に取り組んでおり、近年の生姜価格の低迷、資材や燃料、肥料高騰等、生産環境の悪化に対応するため、品質向上・コスト削減の取り組みによって産地を堅持し、生姜を核としたいの町の振興に取り組む。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定生産の強化	- JA 高知県伊野支所生姜集出荷場の整備(H28) →産地パワーアップ事業の活用 - 栽培管理技術等の向上に向け、栽培研修会等累計 52 回 - JA 高知県伊野支所生姜集出荷場出入り口等の整備(R2) →高知県集出荷施設等緊急整備事業の活用 - 出荷場・生産者 GAP 点検累計 32 回実施(H29～) - 新規就農者等の確保育成 →就農相談会参加累計 6 回、技術勉強会受講累計 35 回(H29～) →出前授業:(H28:2 校、H29:2、H30:2、R 元:4、R2:2、R3:2、R4:2、R5:4 延べ 704 人)	【成果】 - 新規就農者の確保 - 新規就農者 6 名(R 元～6) - 研修生 6 名(R 元～6) - GAP 点検により集出荷場の入り口の改善が決定 - 生姜加工品開発：25 品(H29～R6) - いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店(H28:18 店舗、H29:19、H30:18、R 元:19、R2～4:中止、R5:18、R6:20) 【課題】 - 単価の低迷、資材の高騰 - 出荷量アップに向けた病害対策等と担い手の確保 - 市場事故防止対策の徹底
生姜加工品の開発・販路拡大	- 生姜加工品開発(H28～) - 芽生姜の甘酢漬け完成(R2)、販売開始(R3～) - 芽生姜のしそ酢漬け完成(R4)、販売開始(R4～) - JA 高知県伊野支所まるい生姜部会提供の規格外生姜(無償提供)を活用したメニュー開発：8 店舗 14 品(R 元～4)	- 就農支援体制の強化及び就農後の経営の安定 - 生姜を活用したメニュー・加工品の販売数の増加
生姜を核としたいの町の振興	- 町内飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」開催(H27～R 元、R5～) - JA 生姜部会とともに町内イベントでの生姜の量り売り(H29～) - 伊野地区生活改善グループによる「kami 祭」での生姜料理ふるまい(H30～)	生姜のまち「いの」定着に向けた PR 強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)囲生姜出荷量※	538t (R5)	287t			580t
(2)生姜加工品・メニュー開発件数	3 件 (R4)	4 件			16 件 (R6～9 累計)

※年産：秋収穫で出荷量実績は 1 月頃

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
品質向上・安定生産 ■JA 高知県(伊野支所) ・出荷調整作業時の乾燥防止対策の徹底 ■いの町 ・鳥獣被害対策に係る支援策の拡充(防護柵設置、狩猟期間中の補助) □県(農業振興センター) ・肥培管理の改善(土壌分析等にもとづく適正量施肥の推進) コスト削減に向けた研究 ■いの町 ・竹チップを活用した土壌改良の検証 ・安価な土寄せ資材の検討及び土寄せの推進 ■JA 高知県(伊野支所) ・低コスト肥料の開発の検討及び肥培管理の改善(土壌分析等にもとづく適正量施肥の推進) 担い手の確保・育成 ■いの町 ・新規就農者の確保(提案書の改定、就農相談会への参加、就農計画の作成) ・新規就農者の育成(就農計画の実践支援) ・いの町管内小学校で出前授業の実施					
生姜加工品の開発・販路拡大の推進					
■いの町 ・メニュー開発店舗の開拓、試作品作成に向けた支援 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度等の活用提案、セミナー紹介、各種支援制度に関する情報提供					
生姜を核としたいの町の振興					
■いの町 ・いの生姜焼き街道の PR と参加店の開拓、イベントの開催 □県(地域本部等) ・広報支援等					

仁淀川地域アクションプラン			分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.4 本川手箱きじの販路拡大 (いの町)			
実施主体	◎ 本川手箱きじ生産企業組合、いの町			
AP への位置づけ	H21.4 月			
事業概要	いの町本川地区の特産品である「本川手箱きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。			

主な取り組み		これまでの主な動き		主な成果・課題	
営業力の強化による 販路拡大		取り組みの内容		【成果】	
		1. 関係者との連携による取り組み		・定例会の開催による関係者間での情報共有と取引組みの検討	
		・生産・販売について協議する定例会の開催			
		・四国内の他産地との連携に向けた情報交換会の開催(R5)		・商談会への参加等による新規顧客の確保	
		2. 業務用販路拡大のための取り組み			
		・営業・販促ツールの作成(H30)		・レバパテの無添加改良、すき焼きセットの開発など顧客ニーズに応じた商品の開発	
		→産振補助金の活用			
		・県商談会への参加と個別商談の実施		・生産効率の向上(R6)	
		・地産地消外商公社、県、町の紹介による新規商談の実施			
		・ホームページのリニューアルによる新規取引先の獲得		対前年：ヒナ発生数8.4%増加、異常ヒナ発生数69%減少	
		・商談用の営業資料の磨き上げ(R6)			
		→産振アドバイザー制度の活用		【課題】	
		・展示商談会(スーパーマーケット・トレードショー)への出展(R6)			
		3. 一般消費者への認知度向上と販売促進の取り組み		・県外を中心とした業務需要向けの販路開拓	
		・顧客のニーズに応じた商品の開発・改良			
		・まじ認知度向上のためイベントへの出展		・食材としてのまじの認知度向上	
		・町内の飲食店と連携した「いの町まじ巡礼スタンプラリー」実施(R2)			
		・町観光協会「特産品オンラインショップ」への掲載開始(R2～)		・個人向け販売の強化	
		・(株)四万川と連携した「土佐のまじ祭り」の開催(R2～)			
		・仁淀ブルー体験博での体験事業の実施(R3～R5)		・既存取引先との取引継続	
		1. 安定した生産体制確保のための取り組み			
		・地域おこし協力隊の導入(R4～R6)			
		・飼育部屋毎の孵化成績等のデータ化、検卵の実施など中央家畜保健衛生所の指導に基づく生産性向上のための取組実施			
		・衛生管理マニュアルの整備、既存施設の衛生環境の強化			
		・貯卵用保冷庫改修、保湿施設設置(R4)			
		・孵化後のヒナの生育率の向上			
		→生産性向上推進アドバイザーの導入(R7)			
		2. 衛生管理向上と生産能力拡大に向けた取り組み			
		・まじ加工処理施設整備(H21,R2)			
		→産振補助金の活用			

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	1,501万円 (R4)	2,097万円			3,300万円

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
営業力の強化による販路拡大 ■ 本川手箱きじ生産企業組合 ・関係機関との連携による取り組みの推進 [業務用販路拡大に向けた営業] ・首都圏で開催される展示会出展などによる新規取引先の開拓 ・県商談会への参加 ・既存取引先へのアフターフォロー ・営業ツールの改善・活用 [一般消費者への食材としての認知度向上と販売促進] ・各種イベントでのPR ・(株)四万川と連携した認知度向上のためのイベント実施 ・顧客のニーズに応じた商品開発 ■ いの町 ・地域おこし協力隊の活用等の検討 ・生産・販売等について協議する定例会の開催による情報共有と状況に応じた取り組み内容の検討 □ 県(地域本部等) ・定例会でのアドバイザー、商談会等の情報提供、産振アドバイザー制度の活用提案					
衛生管理の徹底と安定した生産体制の確保 ■ 本川手箱きじ生産企業組合 ・衛生管理マニュアルに沿った運用 ・県の指導に基づく生産技術向上のための取り組みの実施 ■ 県(中央家畜保健衛生所) ・生産性向上、衛生管理の技術的指導					

仁淀川地域アクションプラン		
分野		農業
AP 名 (実施地域)	No. 5 越知町における食用山椒の産地振興 (越知町)	
実施主体	◎越知町山椒組合	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	県内一の食用山椒の生産量を誇る越知町において、生産者への栽培管理や病害虫防除の指導の重点化、収穫作業などの作業労力の安定的確保などにより、農家所得の向上を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化	○山椒の安定的な生産技術の確立 ・栽培管理資料・防除資料の配付 （R2:4 回、R3:3 回、R4:1 回、R5:1 回、R6:4 回） ・栽培講習会等の開催 （R2:1 回、R3:2 回、R4:1 回、R5:1 回、R6:2 回） ・実証ほの設置 サンショウ緩効性肥料による礼肥効果の検討 （R3:2 カ所、R4:2 カ所、R5:2 カ所） 汚泥肥料の活用実証（R6: 1 カ所） ・土壌分析の実施 （R2:135 点、R3:22 点、R6:45 点） ・新たな担い手候補者との情報共有 （R2:1 回、R3:3 回、R4:3 回、R5:1 回、R6:1 回） ・市町村広報誌による作付呼びかけ・説明会 （R6:管内町村での説明会 4 回＋個別面談 31 人） ・収穫時の労働力確保に向けた話し合い （R2:1 回、R5:3 回、R6:5 回） ・収穫作業雇用状況調査の実施 （R5:1 回、アンケート対象者 26 名） ・農作業環境改善(R6:簡易トイレ等の設置 2 カ所) ・農福連携体験研修を実施:（R6:1 回、15 人） →就労継続支援事業所と業務委託契約締結 ・越知町農福連携支援会設立（R6） ・越知町無料職業紹介所を開設（R6） →雇用を希望する生産者に労働力確保を推進 ・リモコン草刈り機導入検討 リモコン草刈り機実演会（R6:1 回、21 人） ・新規就農者(R6:1 人)	【成果】 ・販売額の向上 R 元年 4,715 万円→ R4 年 7,897 万円 R5 年 11,921 万円 R6 年 10,165 万円 ・加工品の新規取引先を確保 （R2:1 社、R4:1 社） 【課題】 ・栽培や、病害虫防除が十分でない生産者への継続指導 ・取引業者の需要を満たせていない ・出荷調整施設（既存）の老朽化 ・生産者の出荷労力の負担軽減 ・収穫等の作業環境の改善 ・高齢生産者の作業労力軽減
販路拡大	○加工品利用の拡大 ・取引状況や需要についての情報共有連絡会 （R2:1 回）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
食用山椒販売額	6,237 万円 (R2～4 平均)	10,165 万円			7,750 万円 (R6～9 平均)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
栽培管理、病害虫防除の重点指導 ■越知町山椒組合 ・生産者の栽培や病害虫管理の状況確認と重点指導農家の選定 ・栽培講習会等の開催、栽培技術資料の配付 ・総会での生産方針の確定 □県(農業改良普及所等) ・栽培や病害虫防除の状況確認と重点指導農家の選定 ・重点指導農家への個別指導 ・汚泥堆肥活用の実証 出荷の利便性向上 ■越知町山椒組合 ・生産拡大のポータルネットとなっている出荷施設（乾燥機）の増設 □県(農業改良普及所等) ■越知町 ・出荷の現状確認と出荷調整施設の追加導入への支援 ・補助事業等の活用支援 農作業労力の安定的な確保 ■越知町山椒組合 ・収穫等作業の環境改善 ・就労継続支援事業所への作業委託推進 ・アルバイト労力の確保推進 □県(農業改良普及所等) ■越知町 ・収穫等作業の環境改善支援 ・農福連携支援会議、無料職業紹介所を活用した労働力確保推進 ・補助事業等の活用支援 ・スマート農業等の省力化技術の情報提供					
販路拡大 ■越知町山椒組合 ・より有利な販売が可能な取引業者の検討 ・加工品生産の検討 □県(農業改良普及所等) ■越知町 ・取引業者や市況についての情報提供 ・加工施設整備または加工業務の委託について情報提供					

仁淀川地域アクションプラン		
	分野	林業
AP 名 (実施地域)	No.6 仁淀川流域における特用林産物の生産拡大 (仁淀川流域全域)	
実施主体	◎ 特用林産物生産団体	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地域の特色を持った特用林産物（シキミ・サカキ、きのこ類）の生産量の増加や品質向上による販路拡大及び生産者の所得向上を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)シキミ・サカキ生産量	18.1t (R4)	14.1t			21.0t
(2)原木マイタケ生産量	0.9t (R4)	0.8t			1.4t
(3)菌床キクラゲ生産量※	12.2t (R4)	22.0t			50t

※会計年度：(3) 5 月～4 月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
栽培技術・品質の向上	○シキミ・サカキ ・栽培、流通関係研修会の実施（H28～） ・仁淀川町のシキミ・サカキ生産者台帳を整備（H29～） ・サカキ見本林の再整備を実施（H30～） ○原木マイタケ ・集落活動センター「氷室の里」で原木マイタケの生産を開始（H26～） ・森林技術センター等と連携した植菌・栽培等の技術指導（H28～H30） ・集落活動センター「氷室の里」が殺菌釜等を整備（H28） →集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・原木確保、種駒に関する補助（H29～） ○菌床キクラゲ ・国産菌床キクラゲ生産会社として「株式会社ツボイ」を仁淀川町に設立（H30）	【成果】 ○シキミ・サカキ ・生産者への個別訪問や病害虫指導等により安定した良品質のシキミ・サカキの生産を継続 → JA 高知県仁淀出張所を通じ良品質な生産物を出荷 ・栽培放棄地のマッチング（9 件、1.96ha） ○原木マイタケ ・殺菌釜の整備等による原木の殺菌技術の向上 ○菌床キクラゲ ・生産量の増加 ・H30（会社設立時）9.0t →R2:15.0t →R3:20.0t →R4:25.0t →R5:20.4t →R6:22.0t 【課題】 ・生産者の高齢化（シキミ・サカキ、原木マイタケ） ・気象（猛暑）や栽培放棄地の増加による影響（シキミ・サカキ） ・自社工場による菌床生産の確立（菌床キクラゲ）
増産に伴う生産体制及び衛生管理体制の強化	○菌床キクラゲ ・加工施設（スライサー、エビラ、乾燥機、作業小屋）整備に係る融資への支援（R5） ・加工施設（ハウス）の増設（R7）	
流通体制の整備	○菌床キクラゲ ・各見本市等開催の情報提供	

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
栽培技術・品質の向上 全品目		生産者の栽培技術向上 安定的な生産（全品目）			
□県(木材産業振興課、林業事務所、森林技術センター等) ・安定した生産及び品質の向上に向け栽培技術指導や病害虫防除指導を実施					
シキミ・サカキ		生産希望者の掘り起こし 遊休地や放棄地の栽培地再生（シキミ・サカキ）			
□県（林業事務所） ■ 町、JA、生産者 ・生産者巡回等により、遊休地や放棄地の把握、情報収集、移住者等の生産希望者等への情報提供・マッチング					
増産に伴う生産体制及び衛生管理体制の強化 菌床キクラゲ		生産施設拡大への支援（菌床キクラゲ）			
□県（林業事務所） ・生産施設拡大に対する支援（施設導入に関する補助事業活用の支援）					
流通体制の整備 全品目		流通体制の整備（全品目）			
■ JA、生産者 ・SNS 等を活用した情報発信 □県（木材産業振興課、林業事務所、地域本部） ・流通に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し					

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.7 佐川町における自伐型林業の推進と地域の活性化 (佐川町)	分野 林業
実施主体	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体	
AP への位置づけ	H27.4 月	
事業概要	自伐型林業を推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
自伐型林業の確立	・佐川町自伐型林業推進協議会の設立(H26.3 月) ・地域おこし協力隊（自伐型林業）の採用（H26～） ・自伐型林業研修の開催（H26～） ・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林 ICT プラットフォーム」を構築（H28.5 月） ・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施（H28～） ・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結（H28～） ・自伐型林業の施業困難地の切り捨て間伐の実施(R6～)	【成果】 ・山林の管理面積の集約化の推進により、山林の荒廃回避や有効活用、また地域おこし協力隊の卒業後の定着にもつながっている。 ・簡易製材機を導入することとで、町産材を活用したもののづくりの仕組みの構築につながっている。 ・放課後発明クラブ等の取組を通じて、町内の子どもたちに木を使っている楽しさや温もりを感じてもらったとで、ものづくりへの意識醸成につながっている。 ・町産材を活用した商品を日曜市で販売することで、町産材の PR につながっている。 【課題】 ・自伐型林業を担う人材の育成 ・町産材（低質材を含む）を活用したもののづくりの推進
さかり産木材を活用したものづくりの推進	・デジタルファブリケーションを活用したもののづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所（H28.4 月） ・地域おこし協力隊（ものづくり関連）の採用（H28～） ・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催（H28～） ・町内で製作した町産材のおもちゃや赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始（H30～） ・町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター（仮称）」の整備事業計画を策定(R 元) ・地域おこし協力隊 OB への委託による佐川町産木材を活用した商品開発（R2） ・「森林資源フル活用センター（仮称）」の整備計画を中止（R4） ・町産材活用のため、簡易製材機を導入（R4）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)林業関連新規就業者数	13 人 (R2～4 累計)	1 人	2 人		20 人 (R6～9 累計)
(2)山林の集約化面積	369ha (R2～4 累計)	177ha	246ha		400ha (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
自伐型林業の確立 ■ 佐川町 ・自伐型林業研修の実施 ・林地の集約化の推進、継続的・安定的な施業環境の整備 ・地域おこし協力隊の採用再開（R6～） ・自伐型林業の施業困難地の切り捨て間伐の実施とその研修の実施 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供等 ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供等					自伐型林業研修の実施 地域おこし協力隊の採用再開 施業困難地の切り捨て間伐の実施 新たな施業方法の研修の実施
さかり産木材を活用したもののづくりの推進 ■ 佐川町、さかわ発明ラボ ・地域おこし協力隊の採用 ・佐川町産材を活用した商品開発 ・簡易製材機の活用促進 ・低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したもののづくりを通じた人材育成 ・町内イベントや道の駅、おもちゃ美術館等を活用した木育ワークショップの実施 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し				地域おこし協力隊の採用 ものづくりに関する人材育成 商品開発 おもちゃ美術館等を活用した木育の実施	

仁淀川地域アクションプラン		
分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.8 宇佐の一本釣りうるめいわし等の鮮魚加工品の販路拡大と地域の活性化（土佐市）	
実施主体	◎企業組合宇佐もん工房	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	宇佐の一本釣りうるめいわしをはじめとする鮮魚等を原料にした加工品の安定供給体制の構築により、更なる需要拡大を図るとともに、地域での経済波及効果と雇用の創出を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化	・宇佐うるめいわし加工品の生産・販売体制の構築（H21） →産振補助金の活用 ・加工場の新設及び加工機械等の整備（H22） →産振補助金の活用 ・加工場の増改築及び加工機器の整備（H28） →産振補助金の活用 ・県版 HACCP アドバイザーの派遣（R 元.12 月、R2.1 月） ・生産性向上のため商品パッケージ改良（R2） →食品産業総合支援事業費補助金の活用 ・県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得（R 3）	【成果】 ・売上の増加 H 30：9,084 万円 → R 6：16,096 万円 ・複数魚種を使用した海鮮漬け丼を開発（H30～R 6：全 9 種） 【課題】 ・需要増加に対応した更なる生産体制の強化 ・既存商品の品質の向上 ・更なる販路拡大に向けた取組の実施
販路拡大	・宇佐うるめいわしの加工品の生産・販売体制の構築（H21） →産振補助金の活用 ・イベント出店の取組（H21～） （宇佐大鍋まつり、てんこす周年祭等） ・フェア・商談会への参加（H22～） ・「一本釣りうるめ祭り」の開催（H23～） ・「一本釣りうるめいわし推進委員会」の設立（H27） ・うるめいわしを取り扱う土佐市内の飲食店を紹介する「うるめMAP」の作成（H27～） ・展示・商談会への出展（通年）	
新商品開発	・通信販売やデパート向けの商品開発 ・複数魚種を使用した新商品の開発（海鮮漬け丼シリーズ等） →サーモンの漬け丼、鰹を原料としたツナパウチの開発（R 6）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	1 億 2,495 万円（R 4）	1 億 6,096 万円			1 億 7,000 万円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制強化のための機器導入 ■企業組合宇佐もん工房 ・加工ラインの製造効率及び品質を高め、生産能力を拡大するための機器導入・加工場整備の検討・実施 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施 □県（地域本部等） ・産振補助金の活用、各種支援制度に関する情報提供					機器導入・加工場整備の検討・実施
					衛生管理の実施
販路拡大 ■企業組合宇佐もん工房 ・新規の展示会、商談会への出展及び情報収集 ・既存の商談会への参加等の積極的な営業活動による取引拡大に向けた取組 ・一 本釣りうるめ祭り（飲食店イベント）の開催、その他販促イベントへの出店 □県(地域本部等) ・各種支援制度及び展示会・商談会に関する情報提供					販路拡大に向けた情報収集及び営業活動の実施
新商品開発 ■企業組合宇佐もん工房 ・海鮮漬け丼の製造ノウハウを活かした新たな加工商品の開発 ・企業と連携したタイアップ商品等の開発 ・ふるさと納税返礼品の開発 □県(地域本部等) ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用提案					新商品の検討・開発

仁淀川地域アクションプラン		
分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.9 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興 (土佐市)	
実施主体	◎(株)土佐マリンベース、和光商事(株)	
AP への位置づけ	R3.4 月	
事業概要	(株)土佐マリンベースが養殖魚（ブリ、マダイ、カンパチ）の産地加工体制を構築するとともに、マーケットニーズに合わせた商品開発や国内外への販路開拓等に取り組むことで、養殖業等の振興、地元雇用の創出及び地元産品の利用拡大につなげる。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	0.9 億円 (R4)	0.5 億円			5.9 億円

※会計年度：3 月～2 月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
産地加工体制の構築	- 水産加工施設の整備（R3） →水産加工施設等整備事業費補助金の活用 →輸出拡大施設整備等事業費補助金の活用 - 水産加工施設の本格稼働開始（R4）	【成果】 - R3 年度に加工施設を整備し、R4 年 6 月から本格稼働を開始 ⇒20 名の雇用を創出（正規 17 名、パート 3 名、R5 年度末） - 県内事業者と連携して開発した商品の販売を開始（R5） - 量販店と連携した商品の開発は進行（R5） - 米国向け HACCP 及び FDA 施設登録を取得（R5.11） - ベトナム向け施設登録が完了（R5） 【課題】 - 米国向け商品の生産に必要な機器等の整備 - 加工技術の習熟と、衛生管理の強化 - 米国などのマーケットニーズに対応した商品の開発（加工度の高い商品等） - 自社製品が少なく受託加工が中心 - 営業力不足、販路の開拓
商品の開発	- 県内事業者と連携した新商品の開発 - 量販店向け商品の開発 - 水産物輸出促進コーデイナーを通じて国内商社への商品開発の相談	
国内外への販路拡大	- HACCP 導入のためのアドバイザーの招へい及び社内研修（R4） - 輸出のための施設登録の作業の実施（R5） - 国内外の展示会への出展 - R4:国内（4 回）、国外（米国 1 回） - R5:国内（5 回）、国外（米国 1 回） - R6:国内（4 回）、国外（米国 1 回） - 水産物輸出促進コーデイナーと連携した国内商社への商品提案 - 米国及び台湾への輸出開始(R7)	

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
加工体制の強化 ■(株)土佐マリンベース ・新たな機器整備等による加工体制の強化 □県 ・各種補助金の活用 の提案 生産体制及び衛生管理体制の強化 ■(株)土佐マリンベース ・新たな人材の雇用・育成 ・MEL、ISO 認証の取得 □県 ・各種補助金の活用 の提案					施設整備
商品の開発 ■(株)土佐マリンベース ・県内事業者や量販店等と連携した商品の開発 ・ふるさと納税商品や米国向け商品等の開発 □県 ・水産物輸出促進コーデイナーと連携したマーケットニーズの提供 ・産振アドバイザー制度の活用提案				新商品の開発	販売
国内外への販路拡大 ■(株)土佐マリンベース ・市場調査の実施 ・国内外の展示商談会への出展 ・県内事業者と連携した販路の開拓・拡大 □県 ・展示商談会等の情報提供 ・水産物輸出促進コーデイナーや海外サポーターによる国内外商社との商談機会の創出				市場調査の実施	
				国内外の展示商談会への出展	
				県内事業者と連携した販路開拓・拡大	

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.10 「土佐和紙」の販売促進 (土佐市、いの町、仁淀川町、日高村)	分野 商工業
実施主体	◎ 手すき和紙協同組合、◎ 土佐和紙振興会、◎ 高知県製紙工業会、◎ いの町紙の博物館	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地域の伝統産業である「土佐和紙」は、楮栽培農家、用具職人、手すき和紙職人のいずれもが高齢化のため生産が減少し、土佐和紙の売上げも低迷していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、原料や担い手の確保を図るとともに、県内外での消費の拡大につなげる取り組みを行う。	

主な取り組み		これまでの主な動き	主な成果・課題
原料づくり		○持続可能な原料生産の仕組みづくり ・いの町による町内楮農家の現状把握のための調査実施(H29～) ・楮生産者と和紙生産者との意見交換会(R3) ・土佐市等で県内楮農家の実態調査実施(R5～) ○原料生産の効率化 ・楮ワークショップ開催(R3) ・和紙関係者による県内楮畑の機械導入事例視察 (R5)	【成果】 ・後継者育成事業による研修修了者 H28～R6(累計) ：5名(短)、4名(長) ・紙の博物館販売コーナーのリニューアル(R3) ・紙の博物館オンラインショップのリニューアル(R6) ・土佐和紙新商品開発 R5：24件 R6：4件 ・土佐和紙振興会の設立(R7)
担い手づくり		○用具供給の仕組み整備 ・いの町備品(簀、杓)貸出規約を策定(R2) →若手後継者1名の貸出(R2) ○研修受け入れの体制の構築 ・複数講師での短期研修の実施(R5) ・土佐和紙産地留学の実施による後継者候補の掘り起こし(R6) ○土佐和紙の技術保存方法等の構築(ユネスコ登録等) ・土佐典具帖紙勉強会の開催(R5、R6) ○若手の土佐和紙手すき職人による土佐和紙振興会の設立(R7)	【課題】 ・全国的な国産楮不足 ・楮収穫後の作業が高負荷かつ低賃金 ・後継者育成の体制強化、定着支援 ・用具製作における後継者の育成支援 ・将来に向けた土佐和紙の技術保存 ・新しい商品の開発 ・販売促進・販路開拓 ・土佐和紙のブランド力強化
付加価値づくり		○商品開発の推進 ・土佐和紙商品開発支援事業委託業務の実施(R5) ・土佐和紙デザイン&アイデアコンテスト(R6) ○見本市や商談会等への参加 ・ものメッセ等の県内外への商談会等への参加(通年) ○土佐和紙のPR(土佐和紙情報発信含む) ・kami祭開催(H27～)・夜の紙博開催(H29～) ・土佐和紙PRバンフレットの作成(R元) ・高知県伝統的工芸品等デジタルバンフレットの作成(R4) ・産振アドバイザー制度の活用による紙の博物館販売コーナーのリニューアル実施(R3) ・製紙工業会によるJR観光列車へのポケットティッシュ寄贈(R4) ・高知国際版画トリエンナーレ展開催(R2、R5) ・産振アドバイザー制度の活用による紙の博物館ECサイトの魅力向上及び販売促進(R6)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
土佐和紙売上高	4.76 億円 (R4)	4.09 億円 機械すき：3.28 億円 手すき：0.81 億円		R8	R9 6.1 億円 機械すき：5 億円 手すき：1.1 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
持続可能な原料生産の仕組みづくり ■いの町、土佐市等 ・県内楮農家等への実態調査で原料生産・流通量の状況を把握 ・楮生産希望者へ農地紹介(耕作放棄地減) □県(工業振興課、地域本部等) ・楮生産者との情報交換 ・楮生産者への文化庁補助金の紹介 原料加工のための支援 ■いの町、土佐市、手すき和紙協同組合等 ・県内学校への楮加工作業のボランティアの紹介 ・中山間地域対策課事業の「いこうち！」を活用した原料加工の人員確保の実施を検討					楮生産に関する基礎調査 原料生産持続化に向けた取り組み支援 原料加工のための支援
研修受入体制の構築 ■いの町、土佐市等 ・補助制度を活用した後継者育成の支援					後継者の育成支援
用具供給の仕組み整備 ■手すき和紙協同組合 ・用具の修繕等による簀桁（すけた）の確保の検討 ・全国の用具職人の状況などを用具保存会で確認し、用具の修繕がスムーズにできるよう和紙生産者に情報共有 土佐和紙の技術保存方法等の構築 ■手すき和紙協同組合 ・土佐和紙保存会会員の技術研修などの活動を支援					用具の修繕等による簀桁（すけた）の確保の検討 土佐和紙保存会の活動支援
商品開発の推進 □県(県立紙産業技術センター) ・センターの設備やノウハウを活用した商品開発の技術支援 見本市や商談会等への参加 □県(工業振興課、地域本部等) ・国内外で実施される展示会等への出展支援 土佐和紙の PR(土佐和紙文化発信含む) ■いの町、いの町紙の博物館 ・高知国際版画トリエンナーレ展(R8)の開催 ・kami 祭、夜の紙博の開催 □県(工業振興課、地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案					新商品開発の支援 見本市や商談会等への出展支援 土佐和紙 PR の強化
【用語】 ・楮(こうぞ)：土佐和紙の原料となるクワ科の植物。高知県は全国有数の楮産地であるが、最近では農家の高齢化により生産量が激減している。 ・高知国際版画トリエンナーレ展：紙の博物館を会場に 3 年に 1 度開かれている世界でも有数の国際的な版画展として国内外の多くの作家や関係者などに知られている。					

仁淀川地域アクションプラン		
	分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.11 土佐市における木毛（もくめん）を核とした製品の販路拡大とブランド化 (土佐市)	
実施主体	◎(有)戸田商行	
AP への位置づけ	R 6.4 月	
事業概要	「木毛」を核とした持続可能な製品づくりと国内・海外への販路拡大や、エッセンシャルオイル製造販売などの新たな事業の成長により、企業価値の向上と、地域経済への波及を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
木毛等の販路拡大	・緩衝材の他、生活雑貨（枕用アロマシート、シェーズキーパー）などの製品開発・販売 ・杉やヒノキ、文旦を活用したエッセンシャルオイルの製造・販売（オリジナルブランド「MICIL（ミシル）」立ち上げ） ・県内外の展示会や商談会等への出展 ・海外の展示商談会（メゾン・エ・オブジエ（パリ）：R 6）出展	【成果】 ・主に農業資材を梱包する際の緩衝材として着実に売り上げにつながっている。 ・日常使い出来る木毛製品の開発により、一般消費者からの需要も高まっている。 ・エッセンシャルオイルの製造販売を実施。
生産体制の構築	・木毛の貯蔵倉庫の建て替え実施（R 元） ・新型木毛製造機の一部更新（R 2） ・精油抽出装置の導入（R 3） ・エッセンシャルオイル製造に係る原材料（土佐文旦）の調達を開始（R 4～） ・MICIL から新商品の文旦オイルを販売開始（R 5）	【課題】 ・梱包材需要の低下 ・海外市場への営業ノウハウ・スキルの不足 ・今後の継続した原材料の確保 ・木毛製造機械の老朽化 ・更なる認知度の向上、フアンの獲得
情報発信	・経営方針発表会の開催 ・HP、SNS、メディア等を通じ、自社の製品や取り組みを発信 ・定期的な工場見学の受入実施 ・インターンシップ受入実施 ・大学や団体への出講 ・中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定（R 6） ・事務所内に木毛及びエッセンシャルオイル等の商品展示ショップをオープン（R 6）	

指標	出発点	実績			目標
		R 6	R 7	R 8	
売上高※	8,100 万円 (R 5)	8,128 万円	8,370 万円		9,134 万円

※会計年度：9 月～8 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R 6	R 7	R 8	R 9
木毛製品の販路拡大・販売促進 ■(有)戸田商行 ・新製品の開発 ・国内・海外の展示商談会への出展 ・原材料確保に向けた取引先との関係構築 ・木毛製造機械の更新等の検討 □県(地域本部等) ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用提案 ・国内・海外の展示商談会への出展や、木毛製造機械更新に係る情報等の提供 ・産振補助金等、各種支援制度に関する情報提供					新製品の開発 販路拡大 原材料確保 海外市場への販売拡大
エッセンシャルオイル製品の販路開拓・拡大 ■(有)戸田商行 ・新商品の開発 ・海外取引先などの品質基準を満たした製品づくり ・国内・海外の展示商談会への出展 ・請負生産の受注や、安定生産に向けた設備の有効活用 □県(地域本部等) ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用提案 ・産振補助金等、各種支援制度に関する情報提供					新商品の開発 品質の向上 海外市場への販売拡大
企業価値の向上に向けた取り組みの推進 ■(有)戸田商行 ・経営方針発表会の開催 ・SNS やメディア等での情報発信の強化 ・学校・企業等の工場見学や木育ワークショップの開催 ・インターンシップ受入による大学・高校との連携 ・交流人口拡大に向けた飲食・物販コーナーの設置検討 □県(地域本部等) ・大学や団体への出講 ・各種取り組みに必要な情報提供					情報発信の強化 工場見学の受入 木育ワークショップの開催 飲食・物販コーナーの 設置検討 整備

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.12 「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化 (土佐市)	分野 商工業
実施主体	◎ 土佐市、土佐市商工会等	
AP への位置づけ	H23.4 月	
事業概要	農産物等の直販所などを備えた拠点施設「ドラゴン広場」を核として、「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
運営体制の強化	・基本計画の策定（H24） ・「ドラゴン広場」整備（H25） →産振補助金の活用（H24） ・産振アドバイザーを導入して、「ドラゴン広場」の安定運営を検討 →施設の運営体制・管理方法、PR 戦略等の情報発信（H24：7 回） →施設の管理・運営方法の改善（H26:5 回） →お弁当・加工品開発及びブラッシュアップ（H27:2 回） ・ドラゴン広場運営協議会を設立し、運営改善に向けた協議を実施（H26～：12 回） ・チャレンジショップの開設（H28～29） ・経営の安定化及び集客増加を目的として、土佐市商工会が民間事業者とコンサルティング業務契約を締結し、運営（H31～R2） ・イベントスペースを増設（R3） ・新たな指定管理者による運営開始（R6～） ・新規テナントの受入れに向けた増設工事を実施（R6～）	【成果】 ・ドラゴン広場内に新規テナント 3 店舗が新たに开店（R6） ・ドラゴン広場を中心とした定期的なイベント等を通じて、高岡商店街の来街者が増加し、賑わいが創出された 【課題】 ・安定的な施設運営 ・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信 ・施設機能（イベントスペース・調理室）の有効活用
高岡商店街の魅力の向上	・施設の魅力向上及びテナント間の連携を目的として、テナント会を毎月開催（H25～） ・土佐市商店街等振興計画の策定（R5） ・テナントや外部事業者と連携した合同の飲食イベントの開催やハンドメイドワークショップ、その他イベント(音楽フェス、演劇)の事業者受入等をドラゴン広場で実施（R6～） ・ドラゴン広場内に新たなテナントが 3 店舗オープン（R6） ・商店街等振興計画に基づく「高岡商店街デジタルスタンプラリー」等のイベントを実施（R6～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
高岡商店街での事業所の新規開業	4 事業所 (R2～4 累計)	3 事業所			8 事業所 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
土佐市商店街等振興計画の実行・検証 ■ 土佐市・商工会等 ・計画を主体的に実行する事業者の掘り起こし及びフォローアップ ・ワーキング等の開催による計画の芽出し・調整、後方支援 □ 県（地域本部等） ・計画実行にあたって活用可能な補助金メニューの紹介 ・産振アドバイザー制度の活用提案等		アクションプランの実行・検証			
ドラゴン広場の安定した運営・魅力向上 ■ 土佐市・商工会等 ・施設運営に関する支援、広報でのイベント情報の発信 ・調理室やイベントスペース等の施設機能の周知による、交流人口拡大に向けた取り組みの検討 ・定期的なテナント会（月 1 回）の開催による施設の魅力向上、品揃えの充実に向けた取り組み ・テナントが一体となった集客策の検討 ・ドラゴン広場の魅力向上のための新たな仕組みづくりの検討 □ 県（地域本部等） ・施設運営に関する産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供、テナント会への参画による施設運営に関するアドバイス		施設の機能・連携強化 イベント内容の磨き上げによる集客増及び認知度向上 魅力向上に向けた新たな仕組みづくりの検討			
高岡商店街への開業の誘致 ■ 土佐市・商工会等 ・空き店舗調査の実施、空き家バンク登録による情報の発信 ・空き店舗活用への家賃補助事業等の実施検討、店舗改修補助金、創業補助制度等に関する情報発信及びワンストップ窓口対応 □ 県（地域本部等） ・活用可能な補助金メニューの紹介 ・土佐 MBA 等の講座等の紹介、関係者への橋渡し		空き店舗調査の実施 空き店舗の情報発信 高岡商店街での開業者支援・新規開業促進に向けた取り組み			

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.13 いの町中心市街地の活性化 (いの町)	
実施主体	◎いの町、○いの町 商工会	
AP への位置づけ	H24.4 月	
事業概要	いの町中心市街地の空き地・空き店舗等を有効活用して、街の活力を高めるとともに、「いこいのまち」をキーワードとして誰もが訪れたいくなるまちづくりを目指し、商店街の各店舗の魅力を高め、新たな開業を促進する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
中心市街地活性化計画実行に向けた取り組み	・中心市街地活性化プランの策定(H25) ・いの町中心市街地活性化協議会の設立・開催(H30～) ・産振アドバイザー制度の活用によるいの町中心市街地活性化計画の策定(H30) ・商店街の新規事業者等を紹介するリーフレット作成(R元～3) ・まちづくり組織立ち上げ及び地元高校生との連携(R3～) ・産振アドバイザー制度の活用によるいの町中心市街地活性化計画の策定(R4)	【成果】 ・中心市街地活性化協議会WGを開催し、商店街事業者、関係事業者、地元住民等の意見を反映した計画を策定し、取り組みを開始した。 ・創業支援ワンストップ窓口や各種補助制度の周知により、中心市街地での開業者支援や新規開業促進に繋がった。 (R6:2 事業所)
	中心市街地の魅力向上に向けた取り組み	・中心市街地でのイベントの開催 →Kami 祭、かみのひなまつり(H27～) →ひなマルシェ、e-sports 体験会(R4) →商店街よさこい交流演舞(R4～) →まちなかスタンプラリー(R4) →まちなかバスケットボール in INOTOWN(R4～) →おらんくのみさマナー(R5～) →図書館ホリデー(R5～) →いの町クリスマスマーケット(R7～) ・いの町商店街を含む町内の飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」の開催(H27～R元、R5 再開:18 店舗、R6:20 店舗 R7:17 店舗) ・町内への開業の誘致 →空き店舗等対策家賃補助事業(H28～) →創業支援ワンストップ窓口、移住相談業務開始(H28～) →中心市街地空き店舗等活用事業費補助制度(R3～)

・中心市街地でのイベントの開催

→Kami 祭、かみのひなまつり(H27～)

→ひなマルシェ、e-sports 体験会(R4)

→商店街よさこい交流演舞(R4～)

→まちなかスタンプラリー(R4)

→まちなかバスケットボール in INOTOWN(R4～)

→おらんくのサマーセミナー(R5～)

→図書館ホリデイ(R5～)

→いの町クリスマスマーケット(R7～)

・いの町商店街を含む町内の飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」の開催(H27～R 元、R5 再開:18 店舗、R6:20 店舗、R7:17 店舗)

・町内への開業の誘致

→空き店舗等対策家賃補助事業(H28～)

→創業支援フリーストップ窓口、移住相談業務開始(H28～)

→中心市街地空き店舗等活用事業費補助制度(R3～)

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
中心市街地での事業所新規開業	12 事業所 (R2～4 累計)	2 事業所	2 事業所		8 事業所 (R6～9 累計)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
中心市街地活性化プランの実行・検証 ■いの町商工会、いの町(産業経済課) ・計画を主体的に実行する民間事業者の掘り起こし及びフォローアップ ・ワーキングの開催による計画の芽出し・調整、後方支援 □県(地域本部等) ・計画実行にあたって活用可能な補助金メニューの紹介 ・産振アドバイザー制度の活用提案等					中心市街地活性化プランの実行・検証 次期計画の策定に向けた取り組み
中心市街地の魅力向上 ■いの通信局(地元事業者・いの町商工会・(一社)いの町観光協会・いの町らで構成) ・Kami 祭等のイベントによる町の魅力発信 ・イベント来場をきっかけにいの町のアートとなつてもらうための仕掛け作り □県(地域本部等) ・SNS 等を活用したイベントの周知 ・イベント内容磨き上げのための支援 町特産品の生姜の認知度向上及び消費促進 ■いの町商工会 ・町内飲食店の集客増加に向けた取り組み □県(地域本部等) ・SNS 等を活用した取り組みの周知 ・産振アドバイザー制度の活用提案					イベント内容の磨き上げ・イベント開催によるにぎわい創出 生姜加工品の商品開発・販売促進 いの生姜焼き街道イベントの開催 新規開業促進に向けた取り組み

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.14 地域産品を活用した冷菓等の販路拡大 (いの町)	
実施主体	◎(有)高知アイス	
AP への位置づけ	H22.4 月	
事業概要	地域特産品であるゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベツト、ドリンク等の生産性の向上と販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
販路拡大と販売促進	・生産体制・品質管理の強化のための施設整備(H22,24) →産振補助金の活用 ・販路拡大のための HP 改修・営業パンフレット作成(H23) →産振補助金の活用 ・生産設備の拡充及び直営店舗の改修(H29) →産振補助金の活用 ・ハラル認証の取得を活かしたマレーシア等への販路拡大 ・複数の海外商談会など出展 ・産振アドバイザーを導入して BtoC 向け web 通販販路開拓を実施(R3) ・原材料の安定確保のため、自社での柚子栽培を開始 ・新たな搾汁工場の整備(R4) ・売店の飲食スペース・物販コーナーの拡充、冷凍保管庫の増設、工場視察用の窓・見学通路の設置(H26) →産振補助金の活用 ・Kochi Ice Cafe よさこい咲都をオープン(H30) ・地元小学校など少人数の工場見学の受入 ・店舗スタッフ人材育成(社内研修実施)による店舗の魅力向上 ・Instagram を活用した売店の魅力発信 ・PB 商品やタイアップ商品の製造 (PB 商品：JAL 国際線ハラル対応柚子シャーベット、居酒屋チエーン店オリジナルモナカ等、タイアップ商品：映画「竜とそばかすの姫」柚子シャーベット、映画「クレヨンしんちゃん」パッケージアイスモナカ、怪獣 8 号アイスグリッチヨコ、ブラックレモンティーシャーベット、文旦アイス等) ・文旦の果汁を使用したジュースの発売 →高知家のうまいもの大賞 2026 で最優秀賞を受賞(R7)	【成果】 ・産振補助金等を活用し、生産体制の強化や海外への販路開拓などに取り組んできた結果、H24→R4 の 10 年間で総売上 1.7 倍、うち海外市場への売上 6.5 倍になった ・県内生産者からの仕入れも増加 ・新商品が高知家のうまいもの大賞で最優秀賞を受賞し、販路拡大の機会獲得につながった
観光客や工場見学者などへの販売強化		【課題】 ・生産能力が上限に近く、既存工場の狭隘により、新規製造ライン増設不可 ・既存設備の老朽化、汚水処理施設の能力不足 ・生産効率が低く人手不足を補う省力化による生産性の向上 ・海外の新規取引で重視される、認証取得 (FSSC 又は ISO)への対応 ・原材料・資材・水光熱費等製造コストの高騰による利益率の低下 ・搾汁工場の稼働が搾汁時期のみとなっており、年間を通じた利活用ができていない
新商品の開発		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	6.03 億円 (R4)	6.51 億円			8.2 億円

※会計年度：1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
アイスの生産体制の強化 ■(有)高知アイス [生産能力増加、生産性の向上、魅力ある商品づくりのための工場の増設・改修] ・新規設備の導入による生産性の向上、魅力ある商品の開発・製造 ・プラスチック容器から紙容器の需要増などの顧客ニーズへの対応 ・既存工場の稼働継続に必要な浄化槽の整備 [認証(FSSC 又は ISO)の取得] ・海外販路拡大に向けた認証の取得 ・認証基準を満たす工場整備 □県(地域本部等) ・助成制度の紹介、産振アドバイザー制度の活用提案					
搾汁工場を活用した新商品の開発販売 ■(有)高知アイス ・果汁のアイス原料以外での販売 ・果皮を活用した製品など新商品の開発・販売 □県(地域本部等) ・商品開発に活用できる助成制度の紹介、産振アドバイザー制度の活用提案					
国内・海外への販路拡大 ■(有)高知アイス [海外市場] ・展示会や現地消費者向けのイベント出展による、ヨーロッパ・北米・ベトナム等の新たな市場への販路開拓 [国内市場] ・企業とのタイアップ、PB 商品の製造強化 ・関西アンテナショップをきっかけとした、関西圏での販売の強化 [売店・カフェ] ・売店・カフェでの新商品・メニューの開発販売 ・TV 等のメディアによる宣伝広告の実施 ・スタッフ人材育成による店舗の魅力向上 □県(地域本部等) ・商談会等の紹介、産振アドバイザー制度の活用提案					



仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.15 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)	
実施主体	◎(株)BREWSHIDO、日高村	
AP への位置づけ	R7.4 月	
事業概要	日高村の農産物を活用したクラフトビールを製造し、県内外への販路拡大を図るとともに、観光や宿泊業等と連携しながら、地域活性化及び観光交流人口の拡大につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
バブ併設醸造施設の整備及び製造販売体制の強化	・スコットランドで18ヶ月間自家醸造を行い、29種類のビール製造及び独自レシピを開発(R2~R4) ・日高村の地域おこし協力隊として起業に向けた活動を行うなかで、仁淀川町の Mukai Craft Brewing での研修や日本各地の醸造所32カ所を視察(R4~) ・醸造施設を建設する土地を確保(R6) ・専門家の助言を受けながら事業計画を作成(R6) ・活動の拠点となる、醸造施設の整備(R8.3月完成予定) →総務省地域経済循環創造事業交付金(ローカル10,000プロジェクト)活用(R7) ・酒類製造免許の取得 →産振アドバイザー制度を活用(R7) ・知名度向上のためのPR活動、ビールの品質管理ならびに新商品開発に関する技術水準の向上に向けた取り組み →産振補助金(ステップアップ事業(通常分))の活用(R7)	【成果】 施設整備に係る補助金手続等、開業に向けた各種準備が順調に進展 【課題】 ・酒類製造免許取得に必要な醸造施設の整備 ・施設整備後の人員体制の強化 ・販売先の確保 ・副原料の調達先確保、地域との連携強化 ・観光交流人口の拡大に向けた取り組み ・ビール製造過程で発生するモルト粕の堆肥への活用
周辺施設との連携による日高村の特色を生かした観光推進と地域の活性化	・村内宿泊施設等での需要アンケート調査(R6) ・村外宿泊施設の情報収集や営業活動(R6) ・醸造所ツアーの内容検討(R6) ・高知クラフトビール協議会にPRやイベント開催について相談(R6) ・村観光協会と、事業内容の共有、インバウンド向け観光メニュー開発へ協力(R6)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)クラフトビール等販売額	－	－			25百万円
(2)醸造所ツアー参加人数	－	－			288人

※会計年度：3月～2月

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
バブ併設醸造施設の整備及び製造販売体制の強化 ■(株)BREWSHIDO ・施設を整備し、村内産の原料を活用したビールを製造・販売 ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の実施 ・イベント出店による情報発信、県内外の酒屋や専門店等への販路開拓 □県(産業政策課、地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用や各種支援制度、イベント等の情報提供			施設整備	クラフトビールの製造・販売	
人員体制の強化 ■(株)BREWSHIDO ・地域おこし協力隊等の新たな人材の確保、連携 □日高村、県(地域本部等) ・地域おこし協力隊等の導入の検討、人材確保に向けた情報提供				衛生管理の実施	
地域の農産品を活用したバブ限定ビール等の販売 ■(株)BREWSHIDO ・季節の農産物や遊休農地で栽培したホップを使ったバブ限定ビールの販売 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用、各種支援制度に関する情報提供				イベント出店・販路の開拓	
周辺施設との連携による日高村の特色を生かした観光推進と地域の活性化 ■(株)BREWSHIDO ・醸造所見学ツアーの実施(日高村の水害の歴史や地域コミュニティも紹介) ・地域の特色や海外の文化発信による観光客誘致、インバウンド客の受け入れ ・SNSやメディア等、高知クラフトビール協議会と連携したPRやイベント開催 □県(地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供				人材の確保	
モルト粕の堆肥化により、日高村を持続可能な村へ ■(株)BREWSHIDO ・ビール生産の副産物のモルト粕を堆肥化し、地域農業で活用 □県(農業技術センター等) ・モルト粕堆肥の分析等での連携				バブの運営バブ限定ビールの販売	
			SNSでの情報発信イベントの開催	醸造所見学ツアーの実施	
					モルト粕の堆肥化

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.16 地域資源を活用した粉炭づくりによる地域の課題解決および活性化 (日高村)	
実施主体	◎(株)ひだか林業&ITS、日高村	
AP への位置づけ	R8.4 月	
事業概要	日高村の豊富な未活用バイオマス資源(林地残材、竹材、トマト茎葉、食品残渣等)を粉炭として有価物化し、土壌改良、水質浄化、食品添加物、災害時エネルギーなど多様な用途で、県内外への販路拡大を目指すとともに、資源循環を図り、地域の活性化につなげる。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
粉炭の売上高	－	－	－		18 百万円

※会計年度：10 月～9 月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
粉炭の製造販売及び体制の強化	・日高村の地域おこし協力隊として起業に向けた活動を行う(R3～R5) ・株式会社ひだか林業&ITS を創業(R5.7)し、間伐材収集事業を展開、林業家や建設会社など地域内約 40 社の事業者と信頼関係を構築し、年間約 1,000 トンの間伐材の売買取引を開始(R5～) ・間伐材を取り扱う中で、大量の枝葉や林地残材等の未活用や放置が進む状況について、解決策を模索(R5～) ・水分量の多い枝葉やトマト農家が剪定した茎葉などの未活用バイオマス資源を効率的に炭化可能な「山仙ボール式炭化平炉」(有)山本粉炭工業の特許技術)に着目し、導入を決定(R6) ・技術導入に向け、(有)山本粉炭工業での実地研修を実施 (R7.2～R7.7) ・工業技術センターへ試料を提供し、成分分析を実施 (R7.6) ・施設整備のため、総務省地域経済循環創造事業交付金 (ローカル 10,000) に申請(R7.6) ・採択・交付決定 (R7.9) ・施設整備を実施(R8.1) ・製造販売の開始予定(R8.2)	【成果】 ・原料調達に向けた事業者との関係性を構築し、年間約 1,000 トンの間伐材の売買取引が成立 ・研修や施設整備に係る補助金手続きなど、事業実施に向けた手続きが着実に進行中 ・施設整備を開始 【課題】 ・販路拡大に向けた根拠データの収集 ・安定した販路の確保および拡大に向けて、粉炭の品質の安定や、用途の異なる 粉炭を製造するための技術の向上が必要
販路拡大に向けた取り組み	・販路については、約 35 年の販売実績を持つ(有)山本粉炭工業の既存の販売ルート事業承継により引き継ぐ。 ・活用状況等によるデータ収集のため、未活用のバイオマス資源を提供する村内事業者が粉炭を活用し、農作物の生育に与える効果等を検証するための試験栽培を計画 ・工業技術センターへ試料を提供し、カロリーや組成などの成分分析を実施(R7.6) ・安定した販路確保および拡大に向けて、粉炭の品質の安定や、用途の異なる粉炭を製造するための技術の向上が必要	

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
粉炭の製造販売及び体制の強化 ■(株)ひだか林業&ITS ・施設を整備し、未活用バイオマスを活用した粉炭の製造・販売を開始 ・製品品質の安定に向けた、専門家による技術向上研修の受講(原料の種類や含水率に応じて、高度な燃焼調整技術が必要不可欠) □県(産業政策課、地域本部、工業技術センター等) ・産振アドバイザー制度の活用、各種支援制度に関する情報提供 ・粉炭の成分分析及び活用方法に応じた評価 人身体制の強化 ■(株)ひだか林業&ITS ・新たな人材の確保、連携 (地域おこし協力隊等) □日高村、県(地域本部等) ・地域おこし協力隊等の導入の検討、人材確保に向けた情報提供			施設整備	粉炭の製造・販売	
粉炭の販路拡大に向けた取り組み ■(株)ひだか林業&ITS ・活用状況等によるデータ収集のため、村内事業者と連携した農作物等の試験栽培の実施 ・食品添加物等、土壌改良材以外の用途活用に向けた製造技術の向上 ・活用用途に合わせた原材料の調達ならびに調達量の拡大 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用、各種支援制度に関する情報提供					試験栽培 粉炭製造 技術向上に向けた取組 原材料 調達量拡大

仁淀川地域アクションプラン		
	分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.17 仁淀川町におけるクラフトビールを軸にした交流人口の拡大と地域の活性化（仁淀川町）	
実施主体	◎ MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町	
AP への位置づけ	R2.4 月	
事業概要	MUKAI CRAFT BREWING(株)が清流仁淀川の水と副原料として地元食材を活用したクラフトビールを製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、仁淀ブルーのイメージを活かした地域ブランドを確立し、交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
製造及び販売体制の強化	・集落活動センター「山村自然薬校しもなの郷」を開所(H31) ・クラフトビール醸造を開始（R2） ・ムカイクラフトブルレーイング（醸造設備）と併設された飲食スペース「BLUE BREW（ブルーブルー）」をオープン（R2） ・屋外オープニングの設置(R3) ・県工業技術センターへの成分分析及び官能評価の依頼（R3） ・人身体制の強化（R5～R6）	【成果】 ・クラフトビールの本格醸造・販売の開始による来店者数の増加（交流人口増） - R3：3,498人 →R6：3,663人 ・売上高の増加 - R2：370 万円 →R6：1,478 万円 ・雇用の創出（短期） - R6：1 名 ・新規顧客の獲得 ・認知度向上 【課題】 ・安定的な生産体制の構築 ・品質保持とうま味のバランス ・新商品開発 ・プロモーション活動
ブランド化戦略の実践及び販売促進	・MUKAI CRAFT BREWING(株)の設立（R 元） ・町、しもなの郷、観光協会等との定例会の実施(R2～) ・高知市等でのイベント販売(R2～) ・町内外の飲食店での卸販売を開始（R3） ・ふるさと納税の取扱い開始（R3） ・インターネット販売の開始(R3) ・地場産業大賞の「産業振興計画賞」を受賞（R3） ・期間限定商品の販売開始（R3） ・新商品「89」の販売開始（R4） ・集落活動センターのイベント「集マルシェ」への出店（R2：2 回、R3：1 回、R4：1 回、R5：2 回、R6：1 回） ・「高知クラフトビール協議会」を通じた連携(R5～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
クラフトビール販売額※	1,850 万円（R4）	1,478 万円			1,930 万円

※会計年度：3 月～2 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
人身体制の強化 ■ MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町 ・受入体制の強化、新たな人材の確保、連携 □ 仁淀川町、県(地域本部等) ・人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など）					生産体制の構築・人身体制の強化
製造技術の向上 ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・県工業技術センターの分析による成分の数値化					醸造の安定化に向けた分析データの活用
品質管理と衛生管理の確立 ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施					衛生管理の実施
販売促進に向けた取り組み ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・イベント出店による情報発信、町内事業者と連携したイベント開催 □ 県(地域本部等) ・県内イベントなどに関する情報提供					各種イベントへの出店（地元イベント、中四国のビールフェスティバルなど）、自社でのイベント開催
販路拡大に向けた取り組み ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・商談会等への出展による販路拡大、テストマーケティング等による販促活動 □ 県(地域本部等) ・商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援					商談会・フェア等への出店、テストマーケティングの実施など外商活動
副原料となる新素材の発掘と新商品開発 ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現 □ 県(地域本部等) ・新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案					新商品の開発・販売
情報発信・プロモーション ■ MUKAI CRAFT BREWING(株) ・SNS やメディア等を通じた PR					SNS・メディアを活用した情報発信

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核とした野菜の産地形成と販売拡大 (仁淀川町)	
実施主体	◎(株)フードプラン、仁淀川町、(合)清流ファーム、生産者団体、庭先集荷の農家	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産能力の拡大	・食品加工場の加工用水供給施設を整備（専用水道及び冷却水施設整備）（H21） →産振補助金の活用 ・生産能力の拡大に向けて新工場を整備（H29） →産振補助金の活用 ・デジタルビッキングシステムの導入(R4) →食品加工高度化補助金の活用 ・技能実習から特定技能への移行 ・外国人材獲得に向け、海外への情報発信サイト「note」を活用した情報発信(R6) ・販路拡大に向けた消費期限延長に係る機器の視察（H23～） ・市場対応商品開発等事業費補助金を活用して、端野菜を活用したドレッシングのレジビを開発(H28) ・経営革新等支援事業費補助金を活用して、ドレッシングのランディングページを作成（H28） ・産業振興センターの支援を受けて、事業戦略を策定（H30） ・野菜洗浄機と窒素充填機の試用（R4） ・スーパー、ドラッグストア等との取引品目(グリーンリーフ)の増加(R6～)	【成果】 ・雇用の創出 H28：65人（正規11人、パート54人） → R6：79人（正規14人、パート65人） ・技能実習から特定技能への移行者の確保による体制強化 ・関東圏、関西圏の販路拡大 ・ドレッシング試作品開発3品 ・水耕栽培施設との連携による原料確保 【課題】 ・生産性向上のための安定した雇用の確保 ・近畿、関東圏への販路拡大に向けた輸送レートの確保や消費期限の延長 ・高付加価値商品の開発・販売 ・端材野菜の活用 ・産地形成による県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築
原料供給体制の強化	・町内を中心とした野菜生産の仕組みとして、加工用ネギの栽培を開始（R元～） ・農福連携による水耕栽培ハウス、休憩施設、トイレを建設（R4） →農山漁村振興交付金、こうち農業補助金の活用 ・工場隣地でのベビリーフ、リーフレタスの水耕栽培開始(R5～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(株)フードプランの販売額※	8.8 億円 (R4)	8.4 億円	9.2 億円		10 億円

※会計年度：10 月～9 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
安定的な生産体制の構築 ■(株)フードプラン ・製造部門における現場管理の強化や設備の導入による生産性の向上 ・需要に対応するための工場稼働時間の検討、人員体制の強化 ■仁淀川町 ・人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など） □県(地域本部等) ・ものづくり補助金などの活用可能性検討、各種支援制度の情報提供				製造ラインにおける生産性の向上 品質管理の徹底	
				人員体制の強化	
販路拡大 ■(株)フードプラン ・商談会等への出展や営業活動の展開 ・物流手段の確保、消費期限延長の検討 □県(地域本部等) ・商談会等の情報提供、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援				四国内販路の維持拡大 近畿圏、関東圏への販路拡大	
				消費期限延長に向けた実証実験	
商品開発 ■(株)フードプラン ・ドレッシングの新商品開発・販売、カット野菜を活用した観光振興 ■仁淀川町 ・カット野菜を活用した観光客誘致の仕組みづくり、メディアを通じた情報発信 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度の情報提供				端野菜を活用した高付加価値商品の 開発・販売	
				観光振興策の検討	観光商品化・ 情報発信
原料供給体制の強化 ■(株)フードプラン、庭先集荷の農家 ・町内生産者の拡大、加工用ネギ栽培の連携、新たな品目の検討 □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供				産地形成の強化	
農福連携による水耕栽培施設との連携強化 ■(合)清流ファーム ・水耕栽培施設の円滑な運営 □県(地域本部等) ・農業改良普及所による栽培指導				水耕栽培施設の管理運営	

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.19 仁淀川町の基幹産業である茶の6次産業化の推進 (仁淀川町)	
実施主体	◎(株)ビバ沢渡、◎(株)池川茶園、仁淀川町	
AP への位置づけ	H28.9月	
事業概要	仁淀川町の基幹品目である茶をはじめとした農業者の経営持続を図るため、農産物の高付加価値化を進め、6次産業化の推進を図る。	

主な取り組み		
(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化	取り組みの内容	主な成果・課題
	・拠点施設となるカフェ「茶農家の店あすなる（本店：仁淀川町内）」のオープン（H30） →産振補助金の活用（H29） ・加工品製造施設の整備（R3） →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用（R2(R3)繰越） ・産振アドバイザー制度の活用によるオペレーション改善（R2、R3） ・産振アドバイザー制度の活用による経営改善計画の策定（R4）	【成果】 ・雇用の創出 H28:12人（正規3人、パート9人） →R6:27人（正規7人、パート19人、短期1人） ・加工品製造施設の活用による新商品の開発、生産体制の強化充実 ・新規顧客の獲得 ・閑散期に応じた人員の配置転換による組織体制の強化 【課題】 ・中長期的な視点に立った経営基盤の強化 ・新商品開発 ・茶産業を持続させるため の担い手の確保
茶等を原料とした6次産業化の推進	・県内外での商談会出展やイベント等への出店（H28～） ・高知商業高校、城西館、(株)ビバ沢渡が連携して、新商品の「グローバルバウムクーヘン」を開発（H30） ・(株)ビバ沢渡がお茶を使ったミルクジャム「SAWATARICHAJAM」を開発（R元） ・(株)ビバ沢渡が産振アドバイザー制度の活用により新商品「土佐のさわたり生茶漬け」を開発（R2） ・(株)ビバ沢渡が「沢渡茶ようかん」を開発(R3) ・(株)ビバ沢渡がサンシャイン、菊水酒蔵と共同で「ほうじ茶ラテ風味リキキュール」、「紅茶ラテ風味リキキュール」を開発(R4) ・(株)池川茶園が「高知の魅力発信プロジェクト」(高知銀行)による「茶畑ティラミス濃かぶせ茶」を商品改良（R4） ・(株)ビバ沢渡が「香ル茶とレモンのゼリー」、「ほうじ茶と黒豆のパンナコッタ」を開発(R6)	
後継者及び担い手の確保・育成	・町内生産者が連携した茶の収穫・茶畑の管理 ・地域おこし協力隊制度を活用した有機栽培の検討開始(R4) ・茶業振興に係る地域おこし協力隊2名の採用(R6)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)(株)ビバ沢渡の販売額※	5,697万円(R4)	5,970万円		R8	R9 1億円
(2)(株)池川茶園の販売額※	4,093万円(R4)	4,156万円			4,200万円

※会計年度：（1）2月～1月、（2）(株)ビバ沢渡の会計年度に合わせて集計

第5期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
持続可能な経営基盤の確立・強化 ■(株)ビバ沢渡 ・経営改善計画に係るアクションプランの確実な実行 ■仁淀川町 ・茶生産者への支援(仁淀川町茶栽培支援交付金) ・人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など） □県(地域本部等) ・経営体制の強化などに向けた産振アドバイザー制度の活用提案				経営状況等に関する定例会の実施	
				交付金を活用した茶栽培の継続	
基幹品目である茶を原料とした商品の開発・改良及び販売促進 ■(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園 ・商品改良や新商品開発、店舗で提供する飲食等新メニューの開発 ・物販機能の強化 ・商談会等への出展による販路拡大、イベント出店による情報発信 ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の実施 ・SNSやメディア等を通じたPR □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度の情報提供 ・商談会等の情報提供、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援				新商品等の開発・販売	
				商談会等への出展による販路拡大	
				イベント出店やSNS・メディアを活用した情報発信	
				衛生管理の実施	
基幹産業(茶)の維持 ■(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園 ・町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による茶畑の維持・管理 ■仁淀川町 ・茶生産者への支援(仁淀川町茶栽培支援交付金) ・人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など） □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				茶畑管理の仕組みづくり	
				後継者等担い手の確保・育成	

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.20 仁淀川町「池川にんにやく」の生産拡大による地域の活性化 (仁淀川町)	
実施主体	◎山のめぐみ舎、仁淀川町	
AP への位置づけ	R7.4 月	
事業概要	仁淀川町伝統の「池川にんにやく」の生産性の向上と販路拡大を図るとともに、古民家を活用したカフェや宿泊事業との連携により交流人口の拡大や地域の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
運営体制の構築	・山のめぐみ舎を設立(H28) →池川地場産品加工組合から池川にんにやく製造を継承 ・加工場の改修及び設備の整備(H30) →地域おこし協力隊起業支援補助金等の活用 ・山のめぐみ舎をオープン(H30) →土日予約制カフェの営業開始 ・こんにやくづくり体験、ランチ提供を開始(R 元) ・クラウドファンディング活用による古民家一棟貸し宿の整備(R3) ・町内事業者と連携した KILTA Ikegawa を設立(R5) ・山のめぐみ舎の体制強化・販売促進に向けた事業計画・収支計画の検討 (R6) → 産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・池川にんにやくの製造・販売による保存・継承 ・町内事業者との連携による認知度向上 ・新規顧客の獲得 【課題】 ・加工施設の老朽化 ・製造及び販売に関する人材の確保 ・県内外での販路開拓 ・原料(こんにやく芋)の安定確保
販売促進・販路拡大	・KILTA Ikegawa によるモニターツアーの実施(R5) ・池川夜神楽ツアーの開始(R5) ・健康食品製造販売会社(株)NINZIA とのこんにやく芋の加工食品開発に向けた検討開始(R5)	
情報発信・プロモーション	・SNS 等を活用した情報発信(H28～) ・池川にんにやくロゴの作成(H30) ・Web サイトの構築(H30) ・note を活用した KILTA Ikegawa の情報発信(R6) ・(株)NINZIA の社員研修受け入れ(R6)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	164 万円 (R5)	94 万円	140 万円		—

※会計年度：1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
製造・販売体制の強化 ■山のめぐみ舎、仁淀川町 ・加工施設整備及び稼働開始 ・受入体制の強化、新たな人材の確保、連携 □仁淀川町、県(地域本部等) ・人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場：移住施策や地域おこし協力隊など）			候補地の検討・選定	施設の整備	
品質管理と衛生管理の確立 ■山のめぐみ舎 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施			生産体制の構築・人員体制の強化		
			衛生管理の実施		
販売促進に向けた取り組み ■山のめぐみ舎 ・イベント出展による情報発信、KILTA Ikegawa を活用したイベント開催 □県(地域本部等) ・県内イベントなどに関する情報提供			各種イベントへの出展、KILTA Ikegawa でのイベント開催		
販路拡大に向けた取り組み ■山のめぐみ舎 ・商談会等への出展による販路拡大、SNS 等による販促活動 □県(地域本部等) ・商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援			商談会への出展、販促活動		
こんにやく芋を活用した新商品開発 ■山のめぐみ舎 ・生産者との連携強化 ・地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現 □県(地域本部等) ・新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案			新商品の開発・販売		
魅力向上に向けた取り組みの推進 ■山のめぐみ舎 ・SNS やメディア等を通じた PR ・学校や企業等の見学や研修の受け入れ □県(地域本部等) ・各種取り組みにおける情報提供			SNS・メディアを活用した情報発信		

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.21 仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による地域の活性化 (仁淀川町)	
実施主体	◎ (株)高知ウイスキー、仁淀川町	
AP への位置づけ	R7.4 月	
事業概要	清流仁淀川の水と町内資源を活用し、製造したジン・ウイスキーの国内外への販路開拓に取り組むことで、地域の所得向上を図るとともに地域ブランドの確立を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
製造・販売体制の強化	・(株)高知ウイスキーを設立(R6.4) ・蒸留施設の整備に向けた検討(R6.4～) ・飲食店営業許可(キッチンカー)の取得(R6.5) ・キッチンカーでのジン、ウイスキー、リキュール、クロッフルの販売開始(R6.6) ・卸売業免許(果実酒、甘味果実酒、ウイスキー、ブランデー、スピリッツ、リキュール)の取得(R6.8) ・小売業免許(全酒類)の取得(R6.8) ・輸出入 酒類卸売業免許(全酒類)の取得(R6.8) ・県外企業からの委託によるジンの試作・製造開始(R6.11～) ・蒸留施設整備(R8.3 月完成予定) →総務省地域経済循環創造事業交付金(ローカル 10,000 プロジェクト)採択・交付決定(R7.9) ・酒類製造免許の取得に向けた取り組み →産振アドバイザー制度の活用(R7)	【成果】 ・製造開始に向けた検討(施設整備、法手続等)が順調に進展 【課題】 ・酒類製造免許取得申請に必要な蒸留施設の整備 ・製造及び販売に関する人材の確保 ・ブランドの確立 ・副原料の調達先の確保
販路拡大	・県外企業との取り引き開始に向けた検討(R6.4～) ・池川茶及び沢渡茶を使ったジン「ニゴドド」の販売(R7.8～) ・大阪・関西万博への出展(R7.8) ・新規取引先(オンラインショップ)との取引開始(R7.8～) ・ゴジラとコラボしたウイスキー「神羅」「海樹」の販売(R7.9～) ・新規取引先(スーパ―)との取引開始(R7.9～)	
情報発信・プロモーション	・Instagramを通じて情報発信(R6.6～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
ジン・ウイスキー売上高	232 万円 (R6)	232 万円			3,639 万円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
製造・販売体制の強化 ■ (株)高知ウイスキー、仁淀川町 ・施設整備及び稼働開始 ・受入体制の強化、新たな人材の確保、連携 □ 仁淀川町、県(地域本部等) ・人材確保に向けた関係機関の情報提供 (役場：移住施策や地域おこし協力隊など) 品質管理と衛生管理の確立 ■ (株)高知ウイスキー ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施			施設整備	施設稼働	
ブランド力向上に向けた取り組み ■ (株)高知ウイスキー ・これまでに手がけた各種受賞の商品(ジン神、神息ウイスキー等)づくりを生かした地域ブランドの商品開発 ・各種コンテントとのコラボ商品の開発 販路開拓・販売促進に向けた取り組み ■ (株)高知ウイスキー ・商談会等への出展による販路拡大、テストマーケティング等による販促活動 ・イベント出店による情報発信、町内事業者と連携したイベント開催 □ 県(地域本部等) ・商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援 副原料となる新素材の発掘と新商品開発 ■ (株)高知ウイスキー ・地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現 □ 県(地域本部等) ・新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案				新商品の開発・販売	商談会・フェア等への出店、テストマーケティングの実施など外商活動
認知度向上に向けた情報発信・プロモーション ■ (株)高知ウイスキー ・SNS やメディア等を通じた PR					SNS・メディアを活用した情報発信

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.22 さかわの地乳(ぢちち)ブランドの再構築による販路拡大 (佐川町)	
実施主体	◎(有)吉本乳業、◎(株)YOKOBATAKE-ice、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県 (仁淀川地区)	
AP への位置づけ	H21. 4月	
事業概要	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで、さかわの地乳(ぢちち)ブランドを再構築し、地産外商の推進による外貨の獲得を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	・農工商連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置 (H22.7月) ・地乳 PR 用広報・販促物を整備 (H22. 23) →産振補助金の活用 ・地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「地乳ブランド」として PR 開始 (H26～) ・さかわ地乳まつりの開催 (H27～R2、R8) ・畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議 (H26、H27:2 回) ・地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討 →産振アドバイザー制度の活用 (H28: 3 回) ・「地乳プロジェクト」の方向性、体制強化、ブランド再構築に向けた検討を実施 →産振アドバイザー制度の活用 (R6:5 回、R7:9 回) 【(株)YOKOBATAKE-ice(横畠商店)】 ・事業計画のブラッシュアップ →産振アドバイザー制度の活用 (R6:5 回) ・法人化(R6.12.26 設立) ・土佐 FBC の受講(R7)	【成果】 ・地乳を活用した商品販売により地乳の認知度が向上している。 ・地乳を使用する県外の飲食店も増えており、販路が拡大している。 ・地乳プロジェクト推進会議を再開(R6.8.23) 【課題】 ・地乳を活用した新商品の開発及び商品の PR 強化 ・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化 ◎(有)吉本乳業 ・持続可能な経営基盤の確立・強化 ・衛生管理体制の強化 ・販路拡大に向けた商談会等での販売促進 ・物価高騰による商品の値上げから、一般消費者への宅配契約の減少やスーパー等での売上が伸び悩む ◎(株)YOKOBATAKE-ice ・現状の加工場、製造機械では生産能力が限界に達しており、これ以上の販路拡大が困難
牛乳製造施設の持続可能な経営基盤の確立・強化及び販路拡大	・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設 (H26) ・HACCP アドバイザーによる現地指導を実施 (H28:1 回) ・さかわの地乳製造施設を整備 (H28) →産振補助金の活用 ・地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出席 (H29～) ・宅配キャンペーンの実施 (R3) →高知県地域産品地産地消推進事業費補助金の活用 ・県工業技術センターの協力のもと、地乳の味の分析を実施(R7) ・県内外量販店にて地乳試飲会を実施(R7:4 回) ・「地方銀行フードセレクション 2025」(東京ビッグサイト) に吉本乳業と YOKOBATAKE-ice が合同出展(R7.11)	牛乳製造施設の持続可能な経営基盤の確立・強化及び販路拡大 ■(有)吉本乳業 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施 ・経営改善策の検討 ■(有)吉本乳業、(株)YOKOBATAKE-ice、地元商工業者、佐川町、佐川町商工会 ・地乳プロジェクト推進会議の再開・継続：町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳 PR イベント等の開催 ・商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ・加工品の開発及び磨き上げ □県 (地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し ・産振アドバイザー制度の活用提案

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)牛乳類商品販売額※	1.15 億円 (R4)	1.16 億円		R8	R9 1.57 億円
(2)牛乳加工品販売額※	2,269 万円 (R4)	3,782 万円			6,000 万円

※会計年度：(1) 8月～7月、(2) 1月～12月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
牛乳加工品増産に伴う生産体制及び衛生管理体制の強化 ■(株)YOKOBATAKE-ice ・R 8 年度工場新設及び製造機械の整備 ・新たな人材の雇用・育成 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施 □県(地域本部等) ・産振補助金の活用、各種研修会への参加呼びかけ		法人化	産振補助金 審査会	施設整備	稼働 衛生管理の実施
牛乳製造施設の持続可能な経営基盤の確立・強化及び販路拡大 ■(有)吉本乳業 ・HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の実施 ・経営改善策の検討 ■(有)吉本乳業、(株)YOKOBATAKE-ice、地元商工業者、佐川町、佐川町商工会 ・地乳プロジェクト推進会議の再開・継続：町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳 PR イベント等の開催 ・商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ・加工品の開発及び磨き上げ □県 (地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し ・産振アドバイザー制度の活用提案				衛生管理の実施 経営改善の実施 販売促進の体制強化、地乳ブランドの PR 強化 さかわの地乳の県内消費拡大・県外量販店等への販路拡大 さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発	

仁淀川地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.23 「まきのさんの道の駅・佐川」を活用した交流人口の拡大と地域の活性化 (佐川町)	
実施主体	◎佐川町、◎（一財）しあわせづくり佐川、（一社）農産物直売店はちきんの店	
AP への位置づけ	R2.4 月	
事業概要	R5 年 6 月に開駅した「まきのさんの道の駅・佐川」を拠点として、地元の特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
道の駅施設の整備、体制強化	・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討（H28～29） ・道の駅建設候補地の絞り込みと決定（H30～R 元） ・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施（R 元：6 回） ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催（R2：3 回） ・「まきのさんの道の駅・佐川」基本設計書策定のための住民説明会・ワークショップ（R2～3：4 回） ・「まきのさんの道の駅・佐川」実施設計業務の実施（R3） ・運営組織「一般財団法人しあわせづくり佐川」設立（R3） ・農山漁村振興交付金を活用した施設整備（R3～4） ・事業計画書、収支計画書の策定（R3） →産振アドバイザー制度の活用 ・施設整備（R4） →産振補助金の活用 ・おもちゃ美術館の整備（R4） →地方創生交付金、地域観光振興交付金の活用 ・おもちゃ美術館学芸員養成講座の実施（R4～）	【成果】 ・関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定（R 元） ・道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定（R2.8 月） ・住民説明会・ワークショップでの意見を基に、道の駅基本設計書を策定（R3） ・道の駅オープン（R5.6.25） ・おもちゃ美術館開業（R5.7.15） ・地域資源を活用した商品・メニュー開発（R2～R7.3 月時点：19 品） ・道の駅オリジナル商品（バウムクーヘン）の完成 【課題】 ・まきのさんの道の駅を活用した佐川観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり ・地域資源を活用した魅力ある商品等の磨き上げ・開発
佐川町の特産品等の充実強化	・佐川町商品開発ワークショップを開催（R2：5 回） ・商品開発ブラッシュアップ事業（R2～） ・産振アドバイザー制度を活用した道の駅オリジナル商品の開発（R4～） ・はちきんの店に産振アドバイザー制度を活用し経営支援を実施(R6) ・道の駅オリジナル商品の苺プリンと山椒餅を販売開始（R6～） ・オリジナルかき氷(いちご、ほうじ茶、地乳)の商品販売（R7） ・オリジナルバウムクーヘンの新フレーバー「緑茶バウム」の販売(R7)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)年間売上高	—	353,340 千円			325,000 千円
(2)レジ通過者数	—	249,952 万人			32 万人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
道の駅の運営体制の強化					人材の育成・確保
■佐川町、（一財）しあわせづくり佐川					
・安定した運営に向けた人員体制の構築					
・スタッフのスキルアップ等により責任者となれる人材の育成					
・必要に応じて外部人材の登用					
・運営状況等に関する定例会の実施					
道の駅を核とした町内周遊に向けた取組強化					
■佐川町、（一財）しあわせづくり佐川					
・町内関係事業者との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り					
・地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発					
□県（地域本部等）					
・産振アドバイザー制度の活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供					
施設（物販コーナー）の魅力づくり					
佐川町特産品等の品揃えの充実					
出荷（生産）者との連携体制の構築					
道の駅オリジナル商品（バウムクーヘン）のブラッシュアップ					
SNS、メディア等を活用した情報発信					
EC サイトの活用による売上向上及び販路拡大					
□県（地域本部等）					
・県のメディアサイト等での情報発信、産振アドバイザー制度の活用提案					
観光案内所機能の発揮及び情報発信の強化					
EC サイトの開設					
EC サイトの活用による売上向上及び販路拡大					

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.24 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)	分野 観光
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会 土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、 (一社)さかわ観光協会、越知町観光協会、(一社)日高村観光協会	
AP への位置づけ	H24.4月	
事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
魅力づくりの強化・推進	・県事業を活用した商品造成支援 ・滞在型観光の推進 (R2～) ・特産品や食の観光化の推進 (R2～) ・仁淀ブルー体験博の実施 (R3～) ・観光タクシープランの造成・販売 (R3～) ・ONSEN・ガストロノミ・ウオーキングの開催 (R6～)	【成果】 ・仁淀ブルー体験博：56プログラム 567人参加(R6) 57プログラム 720人参加(R7) ・タクシープラン売上：147件 2,795,260円(R6) ・バスツアー誘致数：4,027人(R6) ・公式HP閲覧数：1,473,299PV(R6) ・マスコミによる情報発信の強化：情報提供数 32件(R6) - 無料で掲載された件数 24件 (R6) ・サステナブルコンテンツ開発：10件(R6) ・総会、理事会、広域観光推進部会、担当課長会、DMOワーキング会による関連機関等との連携の強化 ・デジタルデータ活用事業（県事業）への参画によるデータに基づいたマーケティングの実施 【課題】 ・「らまん」効果(R5)の大きかった地域での反動減が見られる ・エリア全体での周遊や滞在延長、宿泊につなげる取り組みが必要 ・インバウンド客をターゲットにしたコンテンツの磨き上げ、受入環境整備やプロモーションが必要
県内外への情報発信の強化・推進	・旅行会社へのセールス活動を展開 (H23～) ・メディアの活用や看板掲出、SNS等によるPRを実施 ・県外の展示会やイベント等への出展 ・観光ガイドブックの作成(H28～) ・HPの整備 (H29:スマホ対応、H30:OTAの連携、R5:観光タクシーの予約) ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施 ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29～) ・サステナブル・ツーリズムの推進 (R4～)	
受入・おもてなし体制の整備強化・推進		
6市町村連携による広域観光の強化・推進	・仁淀川地域観光協議会を設立 (H22) ・(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27) ・第2種旅行業登録 (H28) ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29,R3) ・マーケティング機能の強化 (H30～) ・日本版DMO登録 (R2) ・県版地域おこし協力隊の配置によるマーケティング機能強化 (R2～3)	
インバウンド観光の推進	・旅行会社へのセールス活動 ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30) ・多言語サイト開設・運営 (R2～) ・インバウンド向けタクシープランの造成(仁淀ブルー版インバウンド誘客促進事業)(R6)	

仁淀川地域アクションプラン

AP 名 (実施地域)	No.24 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)	分野 観光
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会 土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、 (一社)さかわ観光協会、越知町観光協会、(一社)日高村観光協会	
AP への位置づけ	H24.4月	

事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。	
------	---	--

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設の宿泊者数	7.9万人 (R4)	7.6万人			7.4万人
(2)主要観光施設の入込数	99.8万人 (R4)	139.6万人			124.4万人
(3)観光消費額	1,698百万円 (R4)	2,280百万円			3,415百万円

■ (一社)仁淀ブルー観光協議会、□ 県

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
滞在型観光の推進		■ □県施策と連動したコンテンツの開発・磨き上げ、スタートアップ支援 ■ 宿泊施設等との連携による周遊促進 ■ □タクシープランの造成等、周遊促進するための導線づくり 「特産品」や「食」の開発・磨き上げ支援			
旅行会社へのプロモーションの強化		■ □関西・中四国のメディア系旅行会社へのセールス強化 メディアを活用した情報発信の強化 ■ SNS等の活用（発地）、ガイドブックの配架（着地） マスコミの活用による情報発信の強化 ■ テレビ、ラジオ、新聞等の活用			
観光の担い手確保・育成の強化		■ □国・県・市町村等が実施する研修会への参加促進 事務局内の情報ネットワーク化の推進 ■ 観光客や観光スポットの情報を集約する体制整備 サステナブル・ツーリズムの推進 ■ 住民や観光客への自然環境保全の取り組みの啓発 ■ SDGsやバリアフリー対応商品の選出と磨き上げ			
マーケティングデータ収集の強化		■ □来訪者実態調査・分析による事業の推進			
関係機関等との連携強化		■ 多様な関係者を巻き込んだ広域観光推進部会の設置・運営 ■ 関係者への進捗状況共有による計画のPDCAの推進			
ニーズに沿った魅力づくりの推進		■ コンテンツの開発・磨き上げ 受入に必要な環境や体制の整備 ■ HPの多言語対応 ■ □関係者と連携したwifi整備、キャッシュレス対応の推進 プロモーションの推進 ■ デジタルメディアを中心としたプロモーションの推進			

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.25 土佐市における体験型観光と食観光の推進 (土佐市)	
実施主体	◎（一社）土佐市観光協会、土佐市、酔鯨酒造（株）、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地域資源を活用した 旅行商品化	【土佐市観光協会等】 ・「うさまちあるき」の商品化（R元） ・土佐市健康都市宣言と運動させた体験型観光商品（フォトロゲイング）を造成（R4） ・Eバイク（レンタサイクル）の周遊マップ、ガイド付き体験メニューの造成（R5） ・仁淀ブルー観光協議会と連携し、温泉ガストロノミー開催（R6） 【宇佐ホエールウォッチング協会】 ・クルージング体験の実施（H26～）	【成果】 ・土佐蔵施設来場者数 H30：956人 → R6：10,362人 【課題】 ・観光ガイド事業拡大のため のさらなるガイドの増員と育成 ・ホエールウォッチングの船頭の確保 ・土佐市の観光商品の情報発信の強化 ・さらなる来客者数増加のための受入態勢の確立 ・地域と連携したイベントの開催
受入態勢の強化	【土佐市観光協会等】 ・産振アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成（H29：5回） ・観光ガイド（土佐市ドラゴンガイドチーム）の設立（R元） ・産振アドバイザーを導入し、観光ガイドチームのスキルアップ研修を実施（R2：5回） ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加（R3～5） 【酔鯨酒造（株）】 ・「土佐蔵」操業開始（H30） ・酒造見学ツアー、併設シヨップ物販、有料試飲開始（H30） ・併設カフェ「SUIGEI SAKE LAB CAFE」オープン（H31） ・施設活用方法に関する協議（H29～R3：7回）	【土佐市観光協会等】 ・土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発（H30） ・土佐市観光パンフレット（きもち、いいとさ）作成（R元） 【ホエールウォッチング協会】 ・ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成（H29） ・オリジナルグッズの販売（通年） 【酔鯨酒造（株）】 ・酒造見学のネット予約開始（H30） ・インフルエンサーを活用したSNSでの広報の開始（R3） ・カフェの新メニューの定期的な展開（通年）
誘客の推進		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)体験型・食観光における入込数※	1,743人 (R4)	990人		R8	R9 2,500人
(2)酔鯨土佐蔵の施設来客数	7,404人 (R4)	10,362人			9,800人

※指標の対象：ホエールウォッチング、宇佐まちあるき等のガイドツアー、フォトロゲイング参加者など

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
地域資源の掘り起こし及び活用による商品化					
■（一社）土佐市観光協会					資源の掘り起こし及び活用による商品化
・地域ならではの特性を活かした新たな体験型観光商品の開発及び既存観光商品のブラッシュアップ					
□県（地域本部等）					
・地域資源活用及びガイド事業に関する産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					
関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入					
■（一社）土佐市観光協会、酔鯨酒造（株）					関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入
・（一社）仁淀ブルー観光協議会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品や体験メニューの開発					
・観光商談会への参加や旅行会社へのセールス					
・HP、SNSの活用による情報発信の強化					仁淀ブルー体験博（一社）仁淀ブルー観光協議会主催）への参画
□土佐市					
・受入態勢づくりに関する情報提供及び助言					
・イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ					
□県（地域本部等）					
・イベント開催に関する産振アドバイザー制度の活用提案					
・その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供					
関係機関と連携した誘客策の実施					
■（一社）土佐市観光協会、酔鯨酒造（株）					関係機関と連携した誘客策の実施
・新たな体験メニューの開発検討					
・観光客誘致のための関係事業者との連携					
□土佐市					
・事業者と連携したイベント企画、広報等での情報発信					
□県（地域本部等）					
・受入態勢づくりに関する産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.26 観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化 (土佐市)	
実施主体	◎土佐市等	
AP への位置づけ	H24.4 月	
事業概要	土佐市の新たな地域振興や情報発信の拠点として整備した観光交流施設「南風」を中心として、地域住民が主体となった、新居地区における交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
施設来客数	11.6 万人 (R4)	8.7 万人			13.6 万人

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
定期的な集客イベントの開催	・産業振興アドバイザー制度を導入し、店舗合同によるイベントの開催を検討（H29：5 回） ・直販所、カフェ、かき小屋 3 店舗が連携したイベント（ごちや南風フェス）を開催（H29：2 回） ・NPO 組織が主体となった集客イベントの開催 豊稗祭（H29.10 月） 土佐文旦フェア（3 月） 周年祭（4 月） スイカメロンフェア（6 月）等 キッチンカーフェス（R3、R4）	【成果】 ・施設来場者数：8.7 万人(R6) ・新たな指定管理者が決定(R7) 【課題】 ・施設活用に向けた体制の確立 ・施設の安定運営及び新たな人材の確保に向けた継続的な取り組みの実施 ・施設の魅力向上に向けた取り組み
集客につなげる施設づくり	・産業振興アドバイザーを導入し、商品配置・レイアウトの改善を実施（H28） ・集客に向けた定期的な協議の実施（H28～） ・施設の新ロゴマークを作成（R3.3 月） ・直販所事業戦略策定セミナーへ参加（R2：5 回） ・お菓子のギフトセット等を制作（R3） ・地域農家等と連携し、地場産品の取り扱いを強化（R3～4）	
施設の安定運営・地域と連携した新たな人材の確保	・施設の安定運営に向けた定期的な協議の実施（H28～） ・新居地区の活性化を目的に、施設の新しい運営方法について民間企業の意見を集めるサウンディング型市場調査を実施（R6） ・新たな指定管理者が決定(R7)	

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
定期的なイベントの開催 ■土佐市等 ・イベント開催の実施体制の確立 ・新居緑地公園を含めたイベントの開催 ・仁淀ブルー観光協議会、土佐市観光協会と連携した誘客策の検討 ・インバウンド対応策の検討（クルーズ船来港に合わせたイベントの実施等） ・広報でのイベント情報の発信 □県(地域本部等) ・イベント開催その他観光客誘致制作に関する産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					実施体制の確立及び定期的なイベントの開催
継続的な集客につなげる施設づくり ■土佐市等 ・地域農家、仕入れ先との関係構築による、魅力ある商品の PR、提供 ・魅力向上を図る施設づくりの検討 ・様々な広報媒体を活用した情報発信 □県(地域本部等) ・施設運営に関する産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					魅力ある施設づくりの検討・実施
施設の安定的な運営のための新たな人材の確保 ■土佐市等 ・施設の安定運営体制の整備、地域住民と連携した人材の発掘及び育成 □県(地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供					新たな人材の発掘及び育成

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.27 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進 (いの町)	
実施主体	◎(一社)いの町観光協会、いの町	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験メニューの販売促進・磨き上げ	・体験メニューによる観光客の受入体制の強化 →食を絡めたまちあるきコース(生姜収穫体験)の実施(R 元～) →くらすど体験アクティビティ用施設改修(R2) →グリーン・パークほどこで「手ぶらで BBQ」の受け入れ開始(R2) →映画「竜とそばすの姫」公開記念紙の博物館限定和紙ファイル作り体験(R3) →仁淀ブルー体験博へのプログラム参加(R3～) →グリーン・パークほどのx mow candle キャンドルプラン販売(R4) ・観光タクシープラン開発(R4) ・旅人と地域のマッチングサービス「旅は人まかせ」サービス開始(R7～)	【成果】 ・映画のロケ地や仁淀ブルーを巡る観光タクシープランの開発、里山エリアの受入環境整備など観光素材の有効活用ができた。 ・紙漉き体験人数の増加 R2:9,624 人 →R6:18,029 人 ・歩き体験人数の増加 R2:40 人 →R6:140 人
誘客促進の取り組み	・グリーンパークほどの整備計画の策定(H21)→産振補助金の活用 ・地域産品等の販売促進 →観光協会によるいの町特産品オンラインショップ(R2～) →いの町ガイドらぶによる「いの町おいしいまちめぐり」マップ作成(R4) →観光協会による土佐和紙を使った蝶ネクタイプローチの作成(R5) ・外国人観光客の受入体制整備 →観光協会の無料公衆無線 LAN 環境等の整備(R 元) →E バイク備品整備、モニターアークの実施、PR 動画の作成(R5) ・土佐和紙工芸村くらすど改修計画策定(R3)、宿泊棟改修(R4～)体験ブース・売店等の運営効率化等への取り組み(R6) →産振アドバイザー制度の活用(R3、R6) ・グリーン・パークほどの等の更なる魅力向上に向けた取り組み(R4～) →オリジナル商品「にこ淵コーヒー」の開発・販売(R5) →「森の○○な家」での宿泊開始(R7～) ・高知県オープンイノベーションプラットフォーム及び中山間地域デジタル化支援事業を活用したにこ淵の渋滞対策 →カメラ等の設備導入、駐車場の混雑の見える化実証実験(R5) ・にこ淵オーバーツーリズム対策 →情報掲示板(サイネージ等)新設、遊歩道・ビューポイント新設、駐車場拡張、トイレ新設等(R6)、先進地視察(R7)	【課題】 ・天候に左右されない体験メニューの開発 ・体験メニューを周遊してもらう仕組みづくり ・渋滞対策や受入環境の整備

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)体験参加人数※	22,527 人 (R4)	25,124 人			30,500 人
(2)体験メニュー売上高※	4,349 万円 (R4)	4,660 万円			5,950 万円
(3)主要観光施設入込数※	391,119 人 (R4)	338,934 人			432,500 人

※指標の対象：(1)(2)カヌー、まちあるき、紙すき等の体験 (3)紙の博物館、633 美の里、木の香等の入込客数

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
体験メニューの販売促進 ■(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会 ・まち歩き等体験メニューの磨き上げ及び地域の特産品と絡めたコースづくり ・観光事業者間の連携強化促進 ・仁淀ブルー体験博への参画 ・都市圏での物産観光展示会・インバウンド商談会等での PR 海外メディア等への PR、SNS 等を活用した体験メニューの周知 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度等の活用提案、各種支援制度の情報提供 ・広報支援					
イベント等の開催 ■(一社)いの町観光協会、いの町 ・イベント内容の磨き上げ、イベント来場者に向けたいの町の魅力発信 ・SNS 等を活用したイベントの周知 □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、広報支援					
地域産品の販売促進 ■(一社)いの町観光協会、いの町 ・れんげいうち日曜市出店事業への参加、県内外での商談会参加 ・特産品オンラインショップの運営、SNS 等を活用した地元産品の PR □県(地域本部等) ・商談会等の紹介、広報支援					
受入環境の整備 ■いの町、事業者等 ・土佐和紙工芸村くらすど宿泊棟の整備 ・グリーン・パークほどのロッジ整備(クラウドファンディング) ・にこ淵基本構想の策定、渋滞・オーバーツーリズム対策とトイレ等の整備 ・地域周遊促進事業の実施(国交省四国整備局等) □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度等の活用提案、各種支援制度の情報提供 ・IoT 推進事業費補助金等の活用支援		くらすど整備	ほどのロッジ整備	にこ淵構想の策定	にこ淵周辺受入環境整備

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.28 いの町本川地区での山岳観光の推進 (いの町)	
実施主体	◎いの町、◎（一社）いの町観光協会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	木の香温泉や山荘しらさ、木の根ふれあいの森を拠点とし、他の観光施設や民間企業と連携して、UFO ラインと呼ばれる石鎚山系の景観や山岳資源を生かした体験メニューを観光客や山歩き愛好者に提供することで、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備	・山荘しらさカフェメニュー開発に産振アドバイザー導入（R2） ・山荘しらさリニューアル（R3.4） ・しらさ野営場再整備の検討（R3～） ・道の駅木の香に公衆無線 LAN 設置（R4） ・UFO ライン山の案内所を開所（R4～R5・山荘しらさ内、R6～桑瀬地区に移転） ・しらさ基本構想の策定（R5.2） ・しらさ野営場の環境調査実施（R6～） ・ふるさと納税型クラウドファンディング達成による UFO ライン（町道瓶ヶ森線）の整備費用調達（R7）	【成果】 ●山荘しらさ利用者 リニューアル前 （客室数 16 室、最大 76 人宿泊） H28：7,061 人（うち宿泊 1,699 人） リニューアル後 （客室数 6 室、最大 21 人宿泊） R3：9,523 人（うち宿泊 955 名） R4：9,326 人（うち宿泊 533 名） R5：8,478 人（うち宿泊 515 人） R6：10,830 人（うち宿泊 696 人） ●UFO ラインウォークツアー参加者の増加 R2：120 名（12 月） →R5：425 名（4 月、12 月） ●UFO ライン山の案内所ワークショップ・イベント R4：4 回開催 R5：7 回開催 ●ふるさと納税型クラウドファンディングの実施により、UFO ラインの認知度向上につながった。 【課題】 ・基本構想に基づいた、しらさ野営場再整備による周辺の観光振興のさらなる推進 ・山の案内所及び山の案内人組織「BLU Mountino」の PR ・各観光施設を拠点とした、雄大な石鎚山系の山々をフィールドとする体験メニューの造成 ・旅行会社等への山岳観光事業の売り込み ・SNS 等を活用した情報発信
新たな体験資源を活用した体験メニュー	・冬季閉鎖中の UFO ラインを活用したウォークツアー（R2～） ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加（R3～） ・雪上車ツアー（R3～） ・森林軌道散策ツアー（R4～） ・UFO ライン山の案内所ワークショップ・イベント開催（R4～） ・雪上車ツアー緊急時運行管理マニュアル整備（R4）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
道の駅木の香・山荘しらさ・木の根ふれあいの森の利用者数	59,634 人（R4）	46,580 人			62,600 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
観光施設（道の駅木の香、山荘しらさ、木の根ふれあいの森）と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ■いの町 ・しらさ野営場の整備 ・道の駅木の香等各拠点施設間の連携 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 ・関係機関との協議等の支援 ・補助金活用等の支援		しらさ野営場	設計 施工	野営場 運用開始	
		観光施設間の交流・連携の推進			
新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化・販売 ■いの町 ・森林軌道・冬山・E-bike 等の観光素材を活用した体験メニューの商品化 ・登山・トレイルランニング等のイベント開催 ・山の案内所を活用したワークショップ・ガイドイベントの造成 ・SNS での情報発信 ■（一社）いの町観光協会 ・旅行会社等への情報発信、（株）ソラヤマいづち、（一社）仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス ・山の案内人組織「BLU Mountino」の PR による活躍機会の創出 ・web サイト、SNS での情報発信 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 ・県の SNS を通じた情報発信		観光資源の掘り起こしと 体験メニューの商品化・販売			
		山岳資源を生かしたイベントの開催			
		山の案内所のワークショップ・ガイド実践			
		インターネット・SNS を通じた情報発信			

仁淀川地域アクションプラン

AP 名 (実施地域)	分野		観光
	No.29 仁淀川町滞在交流型観光の推進 (仁淀川町)		
実施主体	◎仁淀川町、◎(株)ビバ沢渡、◎仁淀川町観光協会、指定管理者		
AP への位置づけ	R5.4 月		
事業概要	自然の景観を生かした滞在交流型観光の拠点施設としてキャンプ場やアクティビティ施設、宿泊施設の整備を行うとともに、他の観光スポットとの周遊ルートを確認し、滞在交流型観光を推進することで地域の活性化につなげる。		

主な取り組み	これまでの主な動き		主な成果・課題
	取り組みの内容		
滞在交流型観光の推進	・仁淀川町公式ガイドブックの作成及び更新による情報発信(H24～) ・観光協会を窓口として情報の集約化を図り、ポータルサイトで情報発信を強化 (H25～) ・広報誌への掲載やSNSを活用した情報発信 (H25～) ・仁淀川町観光協会を設立(H27) ・町内事業者に対して観光資源の素材収集のためのアンケート調査を実施(R2) ・岩屋川渓谷の遊歩道整備(R6)		【成果】 アンケート結果をもとに観光協会が実施する「まちゆうで事業」による町内での連携体制の構築 ・キャンプ場有料化による町にお金が落ちる仕組みづくり ・観光客の誘致 ・SNS を活用した情報発信による観光客の利便性向上 【課題】 ・地域にお金が落ちる仕組みづくり ・飲食や宿泊、特産品や土産販売の施設 ・周遊プランをセールス(提案)する仕組みづくり
宿泊施設(キャンプ場含む)の整備と施設運営	・町内キャンプ場の整備 (ふれあい公園キャンプ場、星ヶ窪キャンプ場、夢の森公園キャンプ場) (R2～4) ・ふれあい公園キャンプ場に指定管理者制度を導入 (R5～)		
岩屋川渓谷を活かした滞在交流型観光施設の運営	・産振アドバイザー制度の活用による戦略プランの策定 (R4) ・NIYO FLY(吊り橋・ジップライン)をオープン(R5) ・(株)ビバ沢渡と町、県との運営状況等に関する定例会の実施(R5～) ・岩屋川渓谷散策イベント「ビバさんぽ」の実施(R5～)		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)キャンプ場利用者数※	1,327 人 (R4)	1,918 人			2,000 人
(2)体験施設利用者数※	－	2,077 人			4,400 人
(3)主要観光施設入込数※	32,917 人 (R4)	32,204 人			34,800 人

※指標の対象：(1)夢の森公園キャンプ場、ふれあい公園キャンプ場、秋葉の宿グランドキャンプ場、
(2)NIYO FLY、(3)ゆの森(入浴含む)、宝来荘(レストラン含む)、しもの郷、秋葉の宿

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
岩屋川渓谷を活用した滞在交流型観光の戦略プラン等の実践 ■仁淀川町、仁淀川町観光協会 ・受入環境の整備 ・滞在観光コンテンツの充実 ・町内観光施設との連携による周遊プランの造成及び OTA の活用促進 ・情報発信・プロモーション ・町内観光事業者や関係者間の連携強化 □県(地域本部等) ・誘客促進に関する情報の収集・発信		プラン実践連携会議の実施			
宿泊施設の整備による宿泊者の受入体制の強化 ■仁淀川町 ・ゆの森の客室増に向けた改修工事等宿泊施設の整備 ・宮崎の河原対岸での滞在拠点施設の整備 ・キャンプ場等の整備及び指定管理者制度導入の検討 □県(地域本部等) ・各種支援制度、産振アドバイザー制度の活用提案や情報提供		地域における「宿泊」・「体験」・「食」機能の連携体制の構築			
		SNS・メディアを活用した情報発信			
		施設改修・整備			
		キャンプ場の整備			
		指定管理者制度等によるキャンプ場の管理運営			
NIYO FLY(岩屋川渓谷吊り橋・ジップライン施設)の持続可能な経営体制の構築 ■(株)ビバ沢渡 ・戦略プランの実践及び検証 ・経営改善計画に係るアクションプランの確実な実行 □県(地域本部等) ・経営体制の強化などに向けた産振アドバイザー制度の活用提案		施設の管理運営			
		プラン実践連携会議の実施			
		経営状況等に関する定例会の実施			
オーバーツーリズムの未然防止・抑制を通じた収益化の取り組み ■仁淀川町、仁淀川町観光協会 ・町内観光スポット(ひょうたん桜、花桃、安居渓谷等)の事前予約制度及び入場料徴収の導入 □県(地域本部等) ・各種支援制度、産振アドバイザー制度の活用提案や情報提供		関係機関との協議導入に向けた検討			運用開始

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.30 仁淀川アウトドアリゾートプロジェクト (仁淀川町)	
実施主体	◎(株)西部建設、仁淀川町	
AP への位置づけ	R7.4 月	
事業概要	新たな滞在拠点施設の整備により、仁淀川の自然資源を生かしたアクティビティ施設へのさらなる誘客を図り、滞在交流型観光の推進と地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
滞在交流型観光の推進	・SUP、カヌーを体験できるアクティビティ施設「仁淀川アウトドアセンター」をオープン(R2) ・仁淀ブルー体験博でのプログラム実施後、メニュー化→R3:クリスマスカヤックナイトツアー、R4:水上自転車、R5:SUP フリートネス、R6:水上アフタヌーンティー ・ナイトホテルカヤックの実施(R4～) ・水上ごたつ体験の実施(R6～)	【成果】 ・SUP・カヌー等利用者数 R2:906 名→R6:21,437 名 ・体験メニューの増設により新規顧客の獲得につながっている。 【課題】 ・荒天時やアウトドア閑散期の誘客促進 ・ハイシーズンにおける観光客の受入体制 ・町内観光施設等への周遊促進
観光客の受入体制の強化	・ふれあい公園キャンプ場の指定管理を受託(R5～) ・施設整備に向けた検討(R6～)	
情報発信・プロモーション	・SNS 等を活用した体験メニューや取り組みを発信(R2～) ・メディアによる取材を通じた PR(R2～) ・大学生(インターン・アルバイト)の受け入れ(R4～) ・高知移住フェアへの出展(R5)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)滞在拠点施設入込数	－	－			R9
(2)アクティビティ体験者数	14,756 人 (R5)	21,437 人			－

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
宮崎の河原を生かした滞在拠点施設の整備等 ■(株)西部建設 ・施設整備及び管理運営 →SUP・カヌー等利用者の受入体制の強化(待機所設置によるキャパシティ拡大) - 物販コーナー・テナントの設置による観光消費額の増加 ・ふれあい公園キャンプ場の管理運営 →施設利用者に対するセットプランの販売等による町内での滞在時間の延長 □仁淀川町、地域本部 ・各種支援制度、産振アドバイザー制度の活用提案や情報提供			施設整備		管理運営
SUP・カヌー等の利用者拡大 ■(株)西部建設 ・体験メニュー開発 ・OTA を活用した商品販売 ・SNS 等を活用した誘客促進 □仁淀川町、地域本部 ・情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し				体験メニューの開発	
				誘客促進に向けた PR	
関係機関等と連携した周遊促進の仕組みづくり ■(株)西部建設 ・町内観光施設との連携による周遊計画の策定・実践 ・SNS やメディア等での情報発信の強化 □仁淀川町、県(地域本部等) ・情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し			計画策定	受入環境の整備 周遊ルートの形成	
				SNS・メディアを活用した情報発信	

仁淀川地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.31 佐川町の歴史と文化を生かした観光の推進 (佐川町)	
実施主体	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文 教のまち・佐川」の魅力を存分に感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体と なって進める。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光資源の利活用、 おもてなしの体制づく り	・歴史的風致維持向上計画の認定（H21、H31） ・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施（H21～26） ・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始（H23～）、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催（H28～） ・さかわ観光協会の設立（H25） ・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、常末維新博に向け て、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施 設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成（H28～29） ・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置（H28～） ・産振アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発（H28、H30：各3回） ・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設の整備（R元～2） ・博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用し、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に向けた観光客受け入れ体制強化のため、草花ガイドの養成や、牧野富太郎ふるさと館を始めとする各種施設の整備等を実施（R4） ・高知県観光博覧会「牧野博士の新休日」開催（R5）	【成果】 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に伴う観光客の受け入れのため、関係者間で連携が強まっている。 ・ガイド研修の実施によりガイドのスキルが向上し、多くの観光客の受け入れにこながっている。 ・わんさかわっしょい体験博覧会プログラム数及び参加者数 R2:16プログラム/189名、R3:17プログラム/143名、R4:20プログラム/196名、R5:14プログラム/117名 【課題】 ・歴史資源等を活用した賑わいが生まれる取組の推進 ・体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの充実
体験型観光の推進	・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催（H30） ・「わんさかわっしょい体験博」の開催（R元～） ・「わんさかわっしょい体験博」を（一社）仁淀ブルー観光協議会主催の体験型博覧会に統合し実施（R6～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)上町地区への入込客数※	30,644人 (R4)	128,891人			R9 100,000人
(2)上町まち歩きガイド利用者数※	4,438人 (R4)	3,152人			5,900人

※指標の対象：(1)旧浜口邸の入込客数
(2)特定非営利活動法人佐川くろがねの会観光ガイド利用者数

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ■佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体 ・歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など ・牧野公園を核とした「まちまると植物園」構想の展開 ■佐川町内の地域づくり団体 ・町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討 □県（地域本部等） ・県のメディアサイト等での情報発信など					牧野公園を核とした「まちまると植物園」構想の展開
焼酎蔵の利活用 ■佐川町、関係事業者 ・用地買収、実施設計の策定、施設整備 □県（地域本部等） ・観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信など					
青山文庫の改修検討 ■佐川町 ・改修内容の検討 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供等					
体験型観光の推進 ■佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者 ・(一社)仁淀ブルー観光協議会主催の体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの磨き上げ、常設体験型観光メニューの実施検討 □県（地域本部等） ・県のメディアサイト等での情報発信					仁淀ブルー体験博への参画

仁淀川地域アクションプラン

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.32 越知町の「アウトドアなまち」体験型観光の推進 (越知町)		
実施主体	◎越知町、◎(株)スノーピーク、◎越知町観光協会		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	仁淀川でのカヌー・ラフティングや横倉山などの地域の観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した商品の販売拡大により、仁淀川と横倉山の全国発信と観光客誘致による交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
カヌー・ラフティングの利用者拡大	取り組みの内容 ・カヌー及びラフティングの備品を整備（H22、H24、H30、R元） →観光拠点等整備事業費補助金等の活用 →産振補助金の活用 ・ガイドの養成、確保（H22～） ・SNS等を活用した情報発信 ・修学旅行にてラフティングの受入れ（R4） ・滝上町との児童交流によるカヌー、ラフティングの受入れ ・仁淀ブルー体験博でのキャンプ＋ラフティングセットプランの販売（R6～）	【成果】 ・カヌー・ラフティング利用者数 R2:1,429人 →R6:1,728人 【課題】 ・平日の稼働率向上 ・発着場（宮の前公園）への土砂堆積によるカヌー運航への支障 ・艇庫の活用を検討
キャンプ場の運営と誘客促進	・キャンプ場を整備（H28～R元） →観光拠点等整備事業費補助金等の活用 ・スノーピークおち仁淀川キャンプフィールドをオープン（H30.4月） ・産振アドバイザー制度を導入して、店舗運営や経営の改善・強化について検討（H30:5回）（R2:3回） ・スノーピークかわの駅おちをオープン（R元.6月） ・かわの駅における定期的なイベントの開催 ・研修等での活用に向けた企業提案（R2～） ・高価格帯商品（グランピングイベント）の販売（R5～） ・道の駅佐川との協議、連携（R5～）	【成果】 ・キャンプ場利用者数 R2:8,295人 →R6:6,938人 【課題】 ・閑散期の施設稼働率向上 ・中心市街地への誘客に繋げる仕組みづくり ・新規顧客の獲得 ・客単価の向上
横倉山のさらなる魅力向上	・横倉山魅力資源活用計画の策定（H28.3月） →産振補助金の活用 ・横倉山ガイドメニューづくり（H27～） ・横倉山トレッキングツアーの開始（H30～） ・横倉山自然の森博物館の改修（R4） →博覧会受入環境等整備支援事業費補助金の活用 ・博物館に地域おこし協力隊（学芸員）着任（R4） ・企画展や観察会等、各種イベントの開催 ・修学旅行や児童交流、実習生を通じた学生の受入れ ・博物館HPやSNS等を活用した情報発信（HP：R4～）	【成果】 ・博物館入館者数 R2:6,187人 →R6:8,722人 【課題】 ・トレッキングツアーの一層の周知・充実 ・展示内容の多様化・刷新 ・他機関との連携

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)カヌー・ラフティング利用者数	1,830 人 (R4)	1,728 人			2,400 人
(2)キャンプ場利用者数	9,121 人 (R4)	6,938 人			11,090 人
(3)かわの駅おちれじ通過者数	19,869 人 (R4)	14,782 人			34,000 人
(4)かわの駅おち販売額	9,823 千円 (R4)	8,038 千円			12,500 千円
(5)横倉山自然の森博物館入館者数	9,470 人 (R4)	8,722 人			10,900 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
カヌー・ラフティングの利用者拡大 ■ (株)スノーピーク ・ガイド確保に向けた情報発信 ・OTAを活用した商品販売 ・各メディアを活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上 ・カヌー発着場移設の検討（宮の前公園→キャンプ場） ■ 越知町 ・備品の更新、施設の維持、修繕、スノーピークとの協議 □ 地域本部					ガイドの育成・確保 販売促進に向けた PR 強化
キャンプ場の運営と誘客促進 ■ 越知町、(株)スノーピーク ・施設の管理、利用者の状況に応じた店舗スタッフの募集・確保 ・各メディアを活用した情報発信による誘客促進、スノーピーク会員への訴求 ・企業研修等誘致による新規顧客の獲得 ・高価格帯商品（グランピングイベント）の販売 □ 地域本部					安定的な運営体制の構築 販売促進に向けた PR 強化
横倉山のさらなる魅力向上 ■ 越知町 ・横倉山自然の森博物館の展示内容の多様化・刷新、他県・他市町村の博物館との連携、企画展の実施、博物館 HP を活用した情報発信 ・博物館友の会の会員増加によるリピーターの獲得 ■ 越知町観光協会 ・横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施 PR による知名度の向上 □ 地域本部					横倉山自然の森博物館の活用推進 横倉山トレッキングツアーガイドの育成・確保 OTA 等を活用した横倉山トレッキングツアーの販売

仁淀川地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	分野	観光
No.33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 (日高村)		
実施主体	◎(一社)日高村観光協会、日高村	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	仁淀川や猿田洞、日下川貯水池、新日下川放水路等の日高村ならではの特色を生かした体験型観光の推進や、小村神社秋の大祭等の特色あるイベントの実施により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化	・村の駅ひだか内に観光情報発信コーナーとして「村の案内所ひだか」を設置(H26) ・産振アドバイザー制度を活用し、観光協会組織の立ち上げに向けた関係者での協議を開始(H30:5回) ・村の駅ひだかの駐車場敷地内の一角に観光案内所を整備し「村の案内所ひだか」を移設(H31) ・日高村観光協会を設立(R元) ・産振アドバイザー制度を活用した外国人旅行者の受入態勢整備(R5) ・日下駅の再整備事業の実施(R5)	【成果】 ・観光をはじめとする日高村内のイベント情報一元化、情報発信 ・日高村観光協会 HP 上で、村内の一部体験観光プランの受付開始 ・体験参加人数 H30：1,370 人 →R6：1,377 人 ・新日下川放水路完成式典(R6.4)等での村内事業者による新たなマルシェイベントの実施 【課題】 ・日下駅の観光拠点施設に向けた取り組み ・新たなガイドの育成 ・新日下川放水路や江尻地区親水公園などの施設等を活用した新規イベント等の企画・運営の立案 ・年間を通じた体験観光人数の増加、小村神社周辺イベントの来場者増加
体験型観光の推進	・村の案内人クラブを事務局として、フットバスやケイビング等のガイド付き体験メニューの提供を本格的に開始(H26～) ・江尻地区かわまちづくり事業による親水公園の整備(H28～)、江尻地区親水公園プレオープンイベント開催(R6) ・インフラツーリズム魅力倍增プロジェクト 新日下川放水路現地協議会の開催(R2～)、新日下川放水路の完成(R5) ・観光総合補助金を活用した、高単価インフラツーリズムプランの検討(R5) ・観光庁事業を活用した、インバウンド誘客に向けた磨き上げ(R5)、インフラツーリズム等の地域資源を活用した商品造成(R6) ・インフラツーリズムや地域資源を活用した教育旅行商品の造成・受入れ(R7～) ・インフラツーリズムとしての持続可能な受入れ態勢の整備(R7～)	
小村神社周辺イベントの企画・実施	・「村の駅ひだか」内に国宝の太刀(レプリカ)を展示し、小村神社の魅力を発信(H26～) ・(特非)日高わのわ会が、小村神社を会場とするイベント「日高メシふえていばる!!!!」を開催(H26～) ・村内事業者を中心に構成された「小村神社前マルシェ実行委員会」が発足し、定期的なマルシェを開催(R2～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)体験参加人数※	2,319 人 (R4)	1,377 人			R9
(2)小村神社周辺イベント来場者数	2,180 人 (R4)	2,850 人			3,500 人

※指標の対象：霧山茶園の焙煎体験や、観光協会や SUGGOI SPORTS などの体験参加者数

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
(一社)日高村観光協会を中心とした情報発信 ■ 日高村及び(一社)日高村観光協会 ・観光案内所への来客や問い合わせへの対応、観光情報の一元化による HP や SNS 等での情報発信、ガイドブックの作成、各種メディアの活用 日下駅の観光拠点施設化 ■ 日高村及び(一社)日高村観光協会 ・日下駅を核とした観光客の受入態勢の整備 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種補助金の紹介		(一社)日高村観光協会を中心とした情報発信(HP・SNS、メディア活用等) 運営体制の構築 本格的な受入れの開始			
体験観光メニュー等の磨き上げ ■ 日高村及び(一社)日高村観光協会 ・新日下川放水路を活用したインフラツーリズムなどの新たな体験観光メニューの開発 □県(地域本部等) ・ガイド人材の育成及び発掘、村内事業者間の連携による周遊プランの造成 ・産振アドバイザー制度の活用提案、支援制度等の情報提供		新コンテンツ造成 コンテンツ販売及び磨き上げ ガイド人材の育成・確保 周遊プランの造成			
体験観光メニュー等の販売促進 ■ 日高村及び(一社)日高村観光協会 ・(一社)に定ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、商談会等の紹介		新コンテンツ販売のための販路開拓及びPR の実施			
小村神社周辺資源を活用したイベント等の開催 ■ 日高村及び(一社)日高村観光協会 ・イベントの企画・実施及び情報発信、(一社)に定ブルー観光協議会との連携によるプロモーション強化、親水公園等の整備・活用 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、イベント情報等の広報支援		施設整備 イベントの企画・開催			
【用語】 ・インフラツーリズム：ダムなどの公共施設を観光資源として位置付け、実際に現地へ歩き観光旅行する行為を指す和製英語					

仁淀川地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.34 日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)	
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、○(一社)能津未来、◎高知 FORESTVISION(株)、日高村	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	清流仁淀川の観光屋形船や集落活動センターミライエ、精油製造体験施設など、能津地区の魅力的な観光拠点づくりを行い、観光客の増加により地域の賑わいづくりや地域の活力の維持・向上を図ることににより地域の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光客の受入態勢の充実	・屋形船の運航開始(H24) ・屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備(H26) →観光拠点等整備事業費の活用 ・能津集落活動センターミライエのオープン(R3) ・屋形船が体験プログラムにおける安全管理マニュアル策定事業者として県制度のゴールド認定を取得(R3) ・精油製造施設(高知 FORESTVISION)の整備(R5) →産振補助金の活用 ・産振アドバイザー制度を活用した屋形船の外国人受入態勢の整備(R5～R6)	【成果】 ・屋形船の運航： H24：1 隻→R3：3 隻 ・能津集落活動センターミライエのオープン(R3) 高知 FORESTVISION (株)の精油製造体験施設の整備(R5) ・台湾ツアー客による屋形船乗船者数、ミライエの弁当販売額の増加 ・地域事業者が連携した体験観光プランの作成 ・ミライエで地域食材を使った新メニューを開発・提供 【課題】 ・持続可能な観光客の受入態勢の構築 ・精油製造体験事業の円滑な実施と誘客の仕組みづくり ・精油の販路開拓・販売促進 ・能津地区周遊の仕組みづくり ・外国人旅行者へ向けた更なる情報発信
利用者の満足度向上	・観光拠点整備計画の策定(H24) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・産振アドバイザー制度を活用した屋形船ガイド養成研修開催(H28) ・映画「竜とそばすの姫」とのタイアップ企画の実施(R3) ・(株)屋形船仁淀川、(一社)能津未来が連携した体験観光プランの実施(R4) ・高知 FORESTVISION(株)で、精油工房の見学・試香体験や精油の蒸留体験を開始、産振アドバイザー制度を活用した商品開発への取り組み(R6)	
国内外に向けた情報発信	・(株)屋形船仁淀川 OTA を活用した商品販売の開始(H30～) ホームページのリニューアル(R4) SNS での情報発信 (フェイスブック H29～、インスタグラム R3～) ・高知 FORESTVISION(株) インスタグラムを活用した情報発信、体験の試行的受入れ(R5～) ・(一社)能津未来 インスタグラム等を活用した情報発信 ・共通:(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、SNS を活用した情報発信	

分野

観光

AP 名 (実施地域)	No.34 日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)	
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、○(一社)能津未来、◎高知 FORESTVISION(株)、日高村	
AP への位置づけ	H21.4 月	

事業概要	清流仁淀川の観光屋形船や集落活動センターミライエ、精油製造体験施設など、能津地区の魅力的な観光拠点づくりを行い、観光客の増加により地域の賑わいづくりや地域の活力の維持・向上を図ることににより地域の活性化につなげる。	
------	---	--

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)屋形船乗船者数	5,083 人 (R4)	11,614 人			8,000 人
(2)精油関係事業の売上高※	－	4,020 千円			30,000 千円

※会計年度：5 月～4 月(R5.4 月精油製造開始)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
ツアー客の受入強化 ■(株)屋形船仁淀川 ・雨天時の代替メニューの作成等の検討 ■(一社)能津未来 ・屋食や土産物の提供 ■共通：村内事業者と連携した観光商品づくり □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、県主催の研修会等の紹介 屋形船遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ ■(株)屋形船仁淀川、(一社)日高村観光協会 ・ガイド募集チラシの配布 ・ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携					ツアー客の受入強化
魅力的な観光商品の作成・精油の販売促進 ■高知 FORESTVISION(株) ・精油の販路開拓・販売促進 ・精油製造体験事業の受入れと誘客へ向けた取り組み ■共通 ・外国人旅行者に対応した体験観光プランの作成 ・地域事業者が連携した観光プランの作成 □県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案、土佐の観光創生塾等の紹介					精油の販路開拓・販売促進
観光客誘致のための情報発信の強化 ■(株)屋形船仁淀川、高知 FORESTVISION(株)、(一社)能津未来 ・OTA を活用した商品販売の継続 ■共通 ・(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、ホームページ、SNS の活用 □県(地域本部等) ・イベント情報等の広報支援、各種支援制度の情報提供					観光客の受入 観光商品の磨き上げ及び PR 活動 魅力的な観光商品の造成 OTA を活用した商品販売 観光客誘致のための情報発信の強化